



全日本畳事業協同組合
All Nippon Tatami Business cooperative

事務局

令和7年5月19日

コミュニケーション・レポート

去る2月19日、経済産業省製造産業局生活製品課が企画、(一財)住宅産業研修財団が主催で「畳のこれからを考える」をテーマにしたコミュニケーションプラザが開かれました。

本来ですと住宅産業研修財団加盟団体のみ閲覧が可能です。今回、特別に講演者様および住宅産業研修財団様の許可を頂き、全日畳会員ページ限定で一部抜粋したコミュニケーション・レポート No. 265 を掲載いたしました。

禁無断転載となっておりますので、閲覧限定を厳守頂きますようお願い致します。

一般財団法人 住宅産業研修財団

コミュニケーション・レポート No.265

畳のこれからを考える

日時：令和7年2月19日(水)

会場：日比谷国際ビル コンファレンススクエア (オンライン併用)

企画：経済産業省 製造産業局 生活製品課

畳は日本の伝統的な床材として、温かみのある感触や部屋の雰囲気や和らげる効果などにより人々に親しまれてきましたが、住まいや生活様式の変化などから和室が減少し、畳市場や畳製造業の事業所数も大きく減少しております。

このような中で、和の住まいや畳の価値の再認識を促す取り組み、畳の新たな展開を模索する動きも現れています。

今回のコミュニケーション・プラザでは、畳の製造、住まいの設計、畳の採用などに関わる関係者からお話を伺い、畳の市場が縮小している背景や要因について分析を行うとともに、制度的な課題や需要の喚起のために関係者の取り組むべき事項を探りながら、畳のこれからを考えていきたいと思ひます。

主催者挨拶

上野 公成 (一般財団法人住宅産業研修財団 理事長) 2

司会者挨拶

潮崎 雄治 (経済産業省 製造産業局 生活製品課 住宅産業室長) 2

① 「畳産業の現状と課題」

石河 恒夫 (全日本畳事業協同組合 理事長) 4

② 「国産畳表の現状と課題」

福嶋 学 (八代市役所 農業振興課 農産係長) 17

中山 貴之 (い草生産者) 35

③

④ 「畳の普及に向けた取り組み」 ～これからの畳の在り方～

黒田 幸弘 (遊民建築研究所) 55

質疑応答 67

ではまず、畳産業の現状と課題について全日本畳事業協同組合 理事長の石河恒夫様からお話を頂戴いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



コミュニケーション・プラザ 265 ①

「畳産業の現状と課題」

石河 恒夫

全日本畳事業協同組合 理事長



石河 恒夫氏

いま、最もきびしい状況におかれている畳店の経営

私は本来、このような場でお話をするような者ではございませんが、少しでも畳業界のことをおわかりいただければと思い、ここにまいりました。私の後に、非常に元気な畳屋さんのほうからお話があるかと思います。

まず自己紹介させていただきますが、家業が畳店で、私は6代目でございます。創業1820年と、岐阜県で現存する畳店ではいちばん古く、その長男として生まれました。

最初は畳の訓練校に行かせてもらい資格を取り、4年ほど家業を手伝ったのですが、その後離れて自分の好きなことをやっておりました。その頃は父が入札で非常に苦労していたのを見ておりました。個人的なことですが、私が提訴をすることになり多額のお金が必要になってしまい、父の力を借りることになりました。その時父が、1枚1,000円、2,000円という手間賃で何十年と畳業で蓄えてきたお金を黙って出してくれたのです。そのことで、私は畳業界に大きな恩が生まれたのです。父、すなわち畳業界に助けていただいたからこそいまの自分がある、という思いがいつも胸の中にあります。

そしてなんとか畳業界に恩返ししたいという気持ちが、自分の活動の源になっているという気がいたします。全日本畳事業組合の理事になって早や12年がたちました。

畳屋さんの90%は零細企業



店主・奥さん・息子

数名の職人またはパートを雇用

縫着機械2台

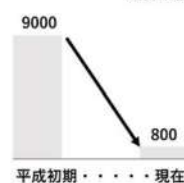
従業員5人以下

図1

畳業界の概観

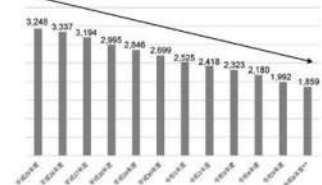
畳流通量（単位：万畳）

※勢組合推定



熊本県いぐさ生産農家
→266戸（毎年約2割が植
え付けをやめている）

全日本畳事業協同組合
組合員数の推移（直近12年間）



※令和5年度は12月20日現在

退会理由「廃業」「単組の維持が困難」

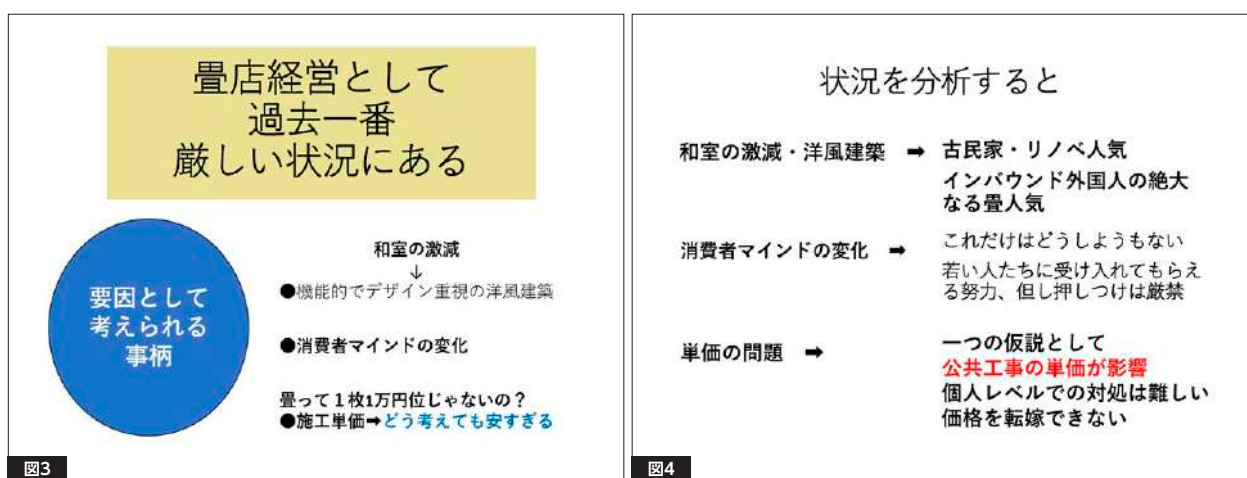
図2

【図1】 これは私の店の工場です。畳屋さんの9割以上の方がこういった機械2つで仕事をされています。短辺と長辺を縫う機械があれば畳をつくる事ができます。畳業は零細企業であるということが全国的にも言えると思います。家族——奥様それから息子さん、数名の職人さんといった、5人くらいでされているところが大半ではないかと思います。

【図2】 畳の流通量は、推計ですが、昭和～平成の初期には9000万畳、約1万畳近い流通量があったのが、平成～令和にかけて、いま800万畳です。10分の1以下に落ちているということです。私どもの組合の加入店数については、私が組合に入ってから12年間の数字を出してみました。最初は3248人の方が加入していましたが、いま1,859人で約60%に減っています。

廃業もあります。いま45支部ありますので1支部で2店辞められると、年間90人の方が退会をするということになります。単組といって自分ひとりが組合員で支部の代表という場合、もう辞めさせてほしいというような申し出もあります。

熊本のいぐさの農家の数に関しては後ほど説明があると思いますが、やはり毎年2割ぐらいの農家が植え付けられなくなってきているというのが現状です。



【図3】 私が畳の経営に関わってから今年、昨年が一番厳しいです。一昨日も広島の方に行って、そこの方々とお話をしたのですが、みなさん同じことを言われていました。

その原因を考えてもあまり意味がないかもしれませんが、機能的で広い空間的なデザイン重視の洋風建築が増えてきたことが大前提としてあると思います。畳の部屋よりフローリングを好むというような、消費者のマインドが変化しているということもあると思います。

加えて、畳の施工単価が非常に安い。畳がいくらか知っていますか、とたずねると、「畳って1枚1万円くらいでしょ?」って、一様に答えられます。昔は別として、高騰する現在の材料代などを考えますと、とても1万円ではできません。

【図4】 和室が減ったといってもいま、古民家など田舎に家を買ってリノベーションするといった人気が非常に高くなってきております。また、インバウンドですね。8兆円産業と言われてますけれども、海外の方の畳やイグサに対する人気は絶大なものがあります。

このように難しい狭間にあるような状況ですけれども、なんとか逆輸入のような形でも、畳が盛り上がっていいかなというふうに思います。

消費者の気持ちへの働きかけは難しいところがあります。消費者マインドという大きなうねりに対して、小手先の小さなものでぶつかっていても吸収されてしまいます。あまり畳を押しつけるものどうか? という気がいたします。

単価が安いという問題に関して、一つの仮説として、公共工事が影響しているのではないかと考えております。公共工事に関しては個人レベルでの対処が難しく、価格に反映されることがなかなか難しいと思います。

重層下請構造が末端の畳店の仕事を危うくしている

1/8 日中野洋昌国土交通大臣と面談

建設業許可の業種区分（全29業種）について陳情

- ・畳工事は**内装仕上工事**に区分けされている（他に8業種ある）ため、畳の製造能力を持たない他の内装仕上工事業者でも公共工事への入札が可能。
 - ・安価な落札の末、いくつかの下請けを経て**再び畳店に丸投げ**されている。いわゆる「**重層下請構造**」（国土交通省も認識）
 - ・施工は、丸投げを掛け負う（安価でも施工・大量の製造能力を持つ）畳事業者に限定され、品質（中国産の使用など）・技術もそれなりのものとなる。
 - ・この安価な公共工事の（最終畳店への）発注価格が一つの指標となり、**個人向けの畳施工単価にも波及**して適正な単価に転嫁できない。
 - ・一昨年、畳振興議員連盟の勉強会にて国土交通省より配布された資料の「**業種区分の見直しの基本的な考え方**」によれば、「適正な施工の確保又は社会的課題の解決に顕著な効果が見込まれること」と記載。
- 現況はまさに施工品質の担保と国税の浪費に直結する問題であり、採算が合わない畳店の廃業がこのまま増えようものなら、日本の伝統文化の一つである**畳が無くなる可能性**がある。

図5

重層下請構造がもたらす 施工水準の典型（ある文化財の茶室）

文化財保護法第四條
文化財は貴重な国民的財産
大切に保存する義務あり
選定保存技術保持者が施工



畳の目が半目（最大）
ずれたまま施工

図6

図5 今年1月8日に中野洋昌・国土交通大臣にお会いすることができました。建設業許可の業種区分が29業種あるのですが、畳工事は内装仕上工事に区分けされています。この内装仕上工事にはほかに8業種が含まれています。畳の入札はそれほど多くありませんが、少ない畳数の入札物件があった時など、畳屋さん以外の業者の方が入札できるのです。畳は付属みたいなものだからということであって安くなってしまふ。最終的に、落札した畳の製造能力を持たない業者が畳屋さんにつくってください、ということになります。その時には、値段がだいぶ下がってしまいます。

国土交通省の方々のご認識いただいていますように、「重層下請け構造」が非常に大きな影響を与えていると思います。ですから、畳は畳屋さんが落札できるようになれば、材料もちゃんとしたもの（国産畳表）を使えるようになります。いまの状況、いくつもの業者の下請けでは、材料も施工もそこそこのものにならざるおえません。

公共工事は税金でまかなわれるものですから、間抜きされるマージンが減れば税金の無駄使いが減ります。いまの下請け構造は、まさに国税の浪費に直結しております。

このような請負業者が十分な工賃を得られないいまの状況が続けば、施工側からみても日本の伝統文化の「畳」がなくなる可能性がある、私は思っております。

図6 これは私が撮った国の文化財の写真です。国宝です。なぜ写真を撮ったかということ、施工が無茶苦茶だからなのです。私は文化財保護法で指定された畳の選定保存技術団体に属していますので、この写真を持って文化庁に、国民の宝・財産たるべき国宝建造物に然るべき施工がされていないということを陳情するためです。

なかなか忙しくて京都の文化庁にまだ行っていないのですが、茶室の畳が半目ずれた仕上がりになっているのです。半目というのは最大のずれ方です。柱のあたりの畳が出っ張っています。施工は単に畳表を交換しているだけで、畳をしっかりと修繕する形跡がまったく見られないのです。

文化財も入札にかけられる場合もあります。下請け下請けを繰り返した挙句、安価で請け負う畳店がやるとこうなるという典型です。

図7 畳店は、業種を広げたり、最新の機械を導入して増産ができるようにしたりと一生懸命努力されていて、手本になるような方がたくさんいらっしゃいます。

町の畳屋さんは、畳を施工するのはさき申し上げた少人数で1日おそらく10枚ぐらいが精一杯じゃないでしょうか。私の店も10枚か12枚ぐらいしかできません。

伝統の技術にこだわる畳屋さん——畳はワラやイグサでないとダメ、縫うのは手で、というように、古来からの伝統の畳にこだわってつくられる方も若干おられますが、そこまで技術が必要な仕事はいまは少なくなりました。それだけでは商売が成り立たない。

図8 私は趣味で茶の湯をしています。これは何年前に、家元の武者小路千家の不徹斎宗匠にお茶を一服たてさせていただいた写真です。お茶の世界は千利休から脈々と続く伝統文化を継承している業界ですから、お家元は伝統というものをどのように捉えたらいいのか？を正しく理解されています。

お家元がWEBサイトでも書かれておられるように、時代ごとの現実をしっかり把握しながら伝えられて来ました。道統をいかにして調和し、畳の伝授に努めるかそこには書きましたが、この緑色の字のところはもともと茶の湯と書いてありました。茶の湯を畳に置き換えても納得のいく文章になり、なるほどというふうに思いました。

お家元は、その時その時にできる最大限の技術を使って対応していくことも、伝統を継承していることになるとおっしゃっています。ちょっと個人的に違和感（茶室は古来の畳でないダメと、自分は頑なに思っている）はありますが、そうしていかないと素材がなくなってしまうたり、新しく良いものが出てきたのに、それはダメだと否定するのもおかしい話です。


お茶の世界で受け継がれてきた「伝統」という言葉の意味を、畳という文字に変えてもまったく違和感なく腑に落ちる文章になります。利休さんは鎌倉・室町時代に中国や朝鮮から渡ってきた高価な茶道具に対し、「見立て」という新たな美意識を見出し、どこにでもある竹を多く採用しました。また棟梁さんのようなこともされていて、いろいろな茶室を設計して、差し物師などの職方に指示を細かく出しています。ここを何センチ作るようになど、細かく指示をしていた指示書が残っています。

今から450年前、利休さんの時代には当然ですがイグサの畳表とワラ床しかありませんでした。現在のような最新の素材がその頃にもしあったら、何を使うのだろうと考えてみても非常に興味があります。

畳店の多極化と特徴

- ビジネスと捉える企業
 - 仕事を増やす努力・啓発
 - 量産可能・最新の機械を導入
 - 公共工事・他の内装工事など幅広く
- 町の地域密着型の畳店（大半の畳店）
 - お客さんのニーズがあればどんな畳も
 - 請負数量は1日10枚程度がMax
- 伝統文化・技術に拘る畳屋さん
 - 畳床は稲わら・畳表はい草に限る
 - マイペース
 - 技術を必要とされる仕事が少ない

伝統って何か？



これまで畳業界は
実は
伝統文化という
名のもとに助け
られてきた。
のかもしれない

茶の湯の御家元のお考え
武者小路千家 不徹斎千宗守家元

千利休宗易居士より現在までの十四代 四百五十年余の間、一貫して守り続けて来たのは、
・その時代毎の現実をしっかりと見据え、
・畳 に対して、世の人々が何を期待しておられるのかを看取して、
・伝えて来た道統を如何にして調和し、
・畳 の伝授の普及に努めるかという事
・「伝統とは革新の集積である」との信念
・伝統や古式をのみ墨守する事なく
・常に客観的な視野に立って 畳 の現実を認識し、家元⇒畳業界としての指導性を保つ。


個人的にはかなり抵抗があるが…
450年前、千利休の時代には、イグサ畳表と稲わら畳床しかなかった。
現代の優れた素材（建材畳表や断熱ボード床が茶室に採用されても、それも伝統を受け継いでいることに変わりはない。

図7

図8

畳という日本の伝統技術を守るために可能なかぎり……

11年目を迎えた全国畳替えキャンペーン



tataキャンペーン 有効応募数の推移（単位：枚）

年	有効応募数（枚）
2022年	5,116
2023年	5,596
2024年	5,786

有効応募枚数は増加傾向

（公社）日本将棋連盟100周年事業 東西新将棋会館建設にあたり 特別対局室に最上級の畳50畳を寄贈

東京新将棋会館




図9

図10

図9 私どもの組合員、1,800人強もただ手をこまねいておらず、さまざまなことをやっています。

tataキャンペーンというものを11年前から始めました。

畳店が畳の新調、表替え、裏返しをされたお客様にハガキを渡して、施工後にハガキを事務局に送っていたという仕組みで、わずかながらこの3年間返ってきた畳の数が少しずつ増えてきました。今年5,786枚返ってきました。その倍ぐらいいは売れています。

このように斬新なポスターもAIでつくりまして、若い方たちにビジュアル的に訴えられるようなポスターをつくったりしてやっております。

図10 昨年、公益社団法人日本将棋連盟がご存じのように100周年で東西に新会場を建てられました。

たまたま私にコネクションがありまして、将棋連盟様の方に特別な部屋だけ畳を入れさせていただけないかと2年前にお願いしたところ、羽生善治会長に快諾していただけて、東京千駄ヶ谷と大阪高槻、2つの会館の特別対局室に畳を寄贈させていただきました。

この畳は、品評会で4度の日本一（農林水産大臣賞）になられている熊本八代市の早川猛さんという方が製織した畳表を使っています。またこの写真は日本将棋連盟から提供いただいております。



図11



図12

図11 東京の新将棋会館には他にも100畳ぐらい畳があるのですが、あえてこの特別対局室の26.5枚だけにさせていただきました。これは連盟の方々に畳というのはランクがある、いい畳は全然違うということを知っていただくためです。ありがたいことに羽生会長をはじめ連盟の方々に、この部屋の畳は違うということを認識いただくことができました。

現在の公式（タイトル）戦は全国各地の名勝地でやることになったそうですから、全国を回ることになります。各勝地の和室、棋士が真剣勝負をする対局室の畳には、特別対局室のような畳を使うことをぜひ将棋連盟の方々がすすめていただけるようになれば幸いです。そうなるといいなという思いで、この事業をさせていただきました。

図12 良い畳は高いです。これは7年経ったものですが、経年変化を経て味わいの真骨頂となっています。年を経てこうなるのがいわゆる良い畳である、というのがわれわれ畳屋の見方です。



図13



図14

図13 これは中継ぎ表といいます。普通は左右まで引きを打つのですが真ん中で2本交差させています。備後、福山では短い草しか取れなかったため、半分の長さのイグサの真ん中の良いところを使っている非常に贅沢な素材です。同じものが京都迎賓館の桐の間に、200枚近く使われています。

図14 真ん中の交差したところを手で取る——むしるって言うのですが、慣れない人がむしると左側みたいに残ってしまいます。コツを得ればこのように根元からきれいにむしることができます。裏向きにして仕上げる、

いまは本当に珍しい畳です。

こだわり究極の畳（素材の妙）

棕櫚（シュロ）裏稲わら床

高宮麻布縁



図15

こだわり究極の畳（手縫いの美）

框（かまち、短辺）

縁側



図16

図15 畳の裏側に棕櫚をつけた棕櫚裏といったこだわりの畳床もあります。右側は畳の縁です。滋賀県の湖東に位置する高宮は、室町～江戸時代にかけて良質な麻織物の産地でした。この高宮布を縦に裂いて縁にします。当然この高宮麻布縁は値段も高く、1畳の縁だけで上質な新畳1枚の価格ぐらいします。藍染めしているので、作業をしていると手が真っ青になります。

図16 機械ではなくて手で縫っている、工芸品のような畳です。美しいと私も思います。

こだわり究極の畳（調和の美）



図17

畳振興議員連盟も
国会で組織されています。
畳を生業とする
生産者～流通～畳店が
一つに集約して
畳業界の受け皿となる組織が
できないものか。

図18

図17 これは先ほどの中継ぎ表で施工した現場です。おそらく現在製作できる畳の中でいちばん高価な畳です。ちなみにこの畳は1畳税別25万円で製作しました。何度かに分けて施工し、全部で80枚ほど作らせていただきましたが、ほとんどが当代ご当主から中継ぎ表の指定でした。地元の400年以上の歴史ある名家ですが、良いものは代々受け継いでいけます。

畳の真ん中に帯のようなものがあります。このように、中継ぎ表では15センチほどの川のようなふくらみが中央に見られます。

図18 畳業界は非常に厳しいですが、日夜考えていろいろな方と接触をしてがんばっているところでございます。少しでも畳屋がいまこうしてがんばっていることをご理解いただければと思います。ありがとうございます。

司会 石河様、ありがとうございました。いまの畳産業の現状やいろいろな取り組み、ご指摘などもいただきました。

コミュニケーション・プラザ 265 ②

「国産畳表の現状と課題」

福 嶋 学

八代市役所 農業振興課 農産係長



中山 貴之

いぐさ生産者



福嶋 学氏

球磨川の豊富な水資源を利用した八代市の農業

みなさんこんにちは、私は八代市役所 農業振興課の福嶋と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
いぐさ産地の現状と課題をお話をさせていただきたいと思います。まず私がお話をさせていただいて、次に
いぐさ生産者の方のお話を聞いていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



図1 まず最初に、八代市の概要に簡単に触れたいと思います。八代市のある熊本県は九州の真ん中に位置しており、本市は南部に位置しております。人口は約12万人です。全体の約70%が山間地域、平野部の多くは干拓地で構成されております。山から海まで宮崎の県境から海まで横長になっております。

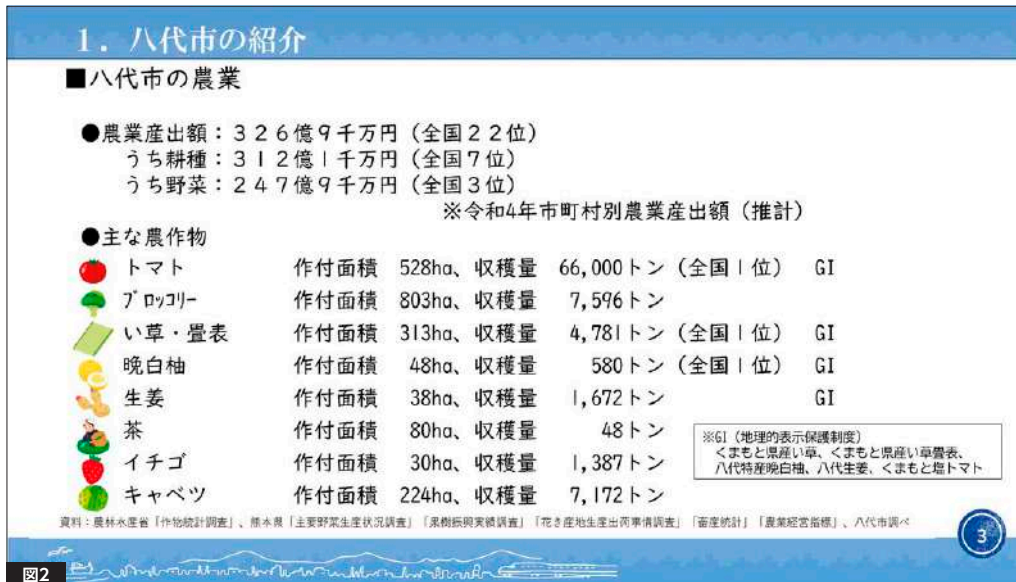


図2 1級河川の球磨川がありまして、豊富な水資源を利用し、古くから農業が盛んな場所です。温暖な気候で、干拓地の八代平野があり八代市ではいろいろな農作物がつくられております。トマトやイチゴなどの施設野菜、ブロッコリー、キャベツなどの露地野菜、今回のテーマともなっております畳の原材料であるいぐさなどの工芸作物と、いろいろな作物が作付けされております。特に冬のトマトが生産量全国1位です。

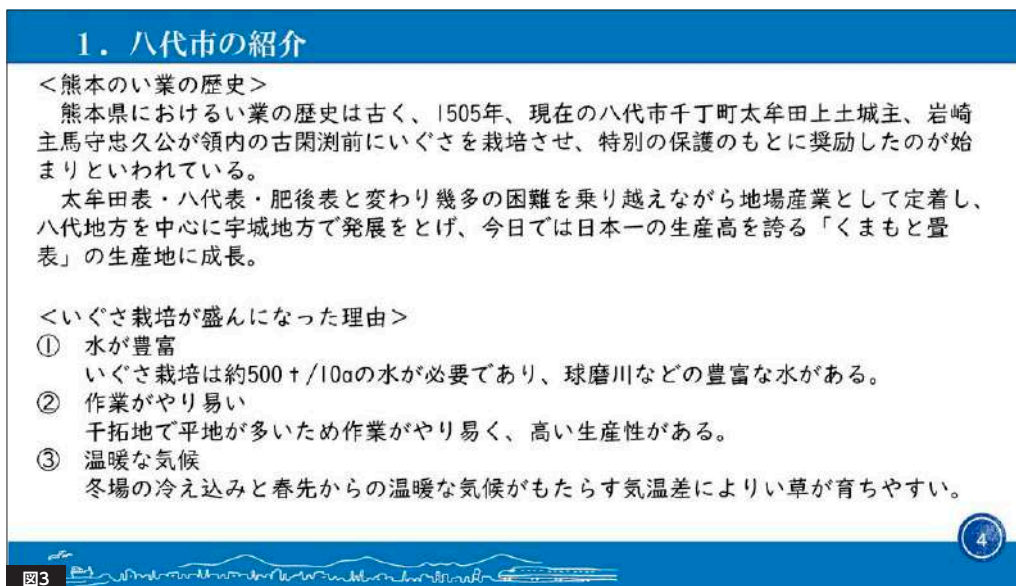


図3 畳の原材料であるいぐさは歴史が古く1505年に栽培されたのが始まりと言われており、約520年の歴史をもつ作物です。現在は日本唯一の産地になっております。いぐさ栽培が盛んになった理由は、水が豊富なこと。いぐさ栽培には約10aあたり500tの水が必要で、豊富な水があったことで盛んになりました。

2番目は作業がやりやすいことです。平坦部、宅地など平地が多いので作業がやりやすく、高い生産性があったことが挙げられます。気候は温暖です。こちらは冬場の冷え込みと春先からの温暖な気候の温度差により、いぐさが育ちやすく、この地域で盛んになったと言われております。

日本最大のいぐさ生産地だが、先細りを懸念

図4 産地の現状をお話しさせていただきます。まず熊本県全体のいぐさの栽培面積です。平成元年、全国でも8,580haほどあり、熊本が6,630ha。それが令和6年では熊本で319haになっております。36年で平成元年の約5%にまで低下している状況です。全国の産地といたしましても平成元年には100ha以上つくって

る産地が7か所程度ありましたが、令和6年度には100haを超えている産地は熊本県しかないという状況です。こちらの図の中で色が赤い部分と青の濃い部分が100ha以上ということで、令和6年は熊本しか残っておらず、あと少しの数量が一部に残っている状況になっております。

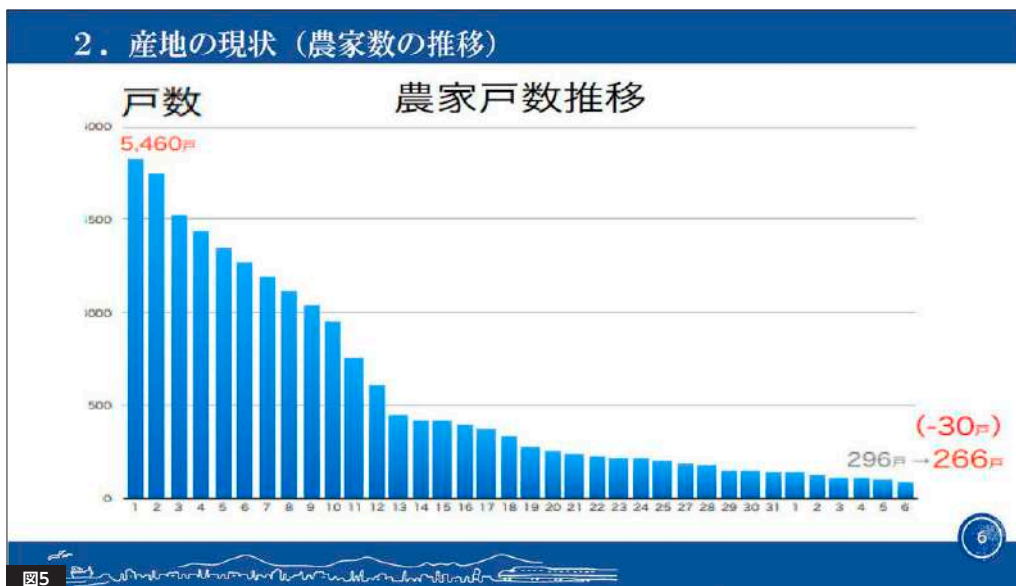


図5 農家の推移です。平成元年には5460戸でしたが、令和6年度には266戸になり、作付面積と同様、年々減少しております。農家戸数は平成元年の5%程度までに減少しているのが現状です。

図6 いぐさ畳表をつくるために使用している専用機械の現状です。農家戸数や作付面積が減少しているのにもない、専用機械の製造などにも影響を与えております。ほとんどの専用機械がいま、製造中止となっているのが現状です。部品の供給はいまのところ一部を除いてはできているのですが、いつまでもつか不確かな状況です。

いぐさ関係者や関係団体等でメーカーに働きかけまして収穫時に使用するハーベスターという機械や植え付け用の植付機を台数限定で1回販売していただきました。が、あくまでも限定的な生産ということで次にいつくれるのかわからないのが現状です。

2. 産地の現状（い業機械の製造状況）

植付から収穫までの工程で使用する機械と畳表に製織するために必要な機械が約25機種あり、そのほとんどが生産中止となっている。

部品供給については、今のところ一部を除いては、部品供給ができています。

○主ない業専用機械の生産状況

機械名	製造	部品供給
苗掘り調整機	生産中止 台数限定再販済	可
苗処理機	生産中止 台数限定再販済	可
カセット式移植機	生産中止 台数限定再販済	可
先刈機	生産中止	一部可（刈刃・丸ペルト）
ハーベスタ	生産中止 台数限定再販済	可
乾燥機	可	可
泥染乾燥システム	中古のみ	可
色彩選別機	生産中止	可
織機	可	可

資料：R5全国い産業連携協議会の調査より抜粋

図6

2. 産地の現状（い業機械の製造状況）

○生産中止となっている主ない業専用機械（R5全国い産業連携協議会の調査より）

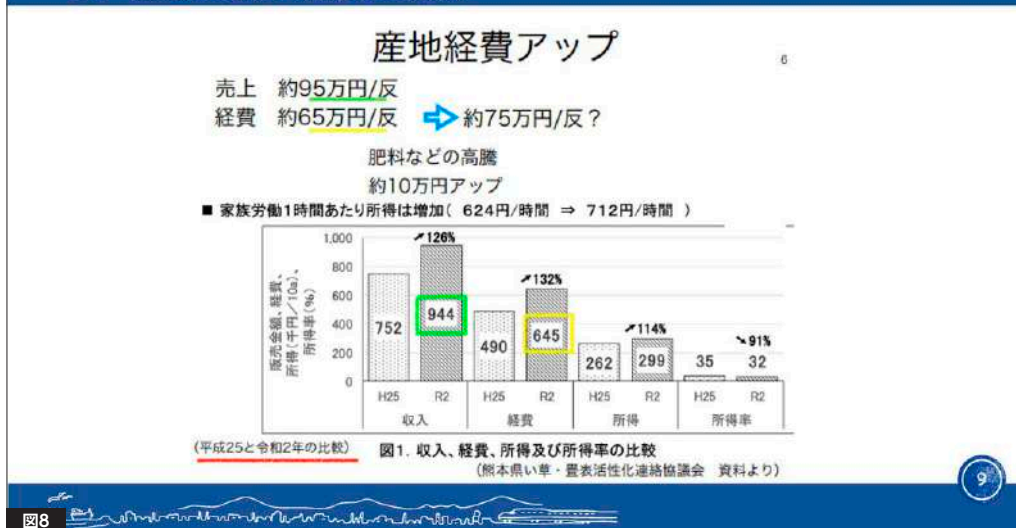


図7

図7 こちらが生産中止になっているおもな機械です。まず左上のほうが水田に植え付けてあるいぐさの苗を掘り取る機械。真ん中の上が4月頃、新芽の発芽を促すために根元まで刈り取り、刈り揃えるために使う機械。右上のがいぐさを泥染めする機械です。右下がいぐさの長さごとに選別する機械。これらの主要な機械も製造中止で、先行き不透明なところです。

図8 もう1つの現状は生産コストの上昇です。こちらは令和3年度に熊本県のいぐさ畳表活性化連絡協議会の調査です。平成25年の収入に比べて令和2年の収入は上がっていますが、同様に経費も上がっている状況です。したがって農家の収入に直接影響する所得率が落ちているのが現状です。現段階では必要な肥料や乾燥に必要な油代なども高騰しており、多分この時の調査よりも10a（1反）あたり約10万円ほど経費上昇の見込みだと言われます。ますます経営自体が厳しくなっているのが現状です。

2. 産地の現状（経費の増加）



いぐさの栽培と畳表の加工—国産ならではの優位性を保つ努力



図9 次はいぐさの栽培と加工について触れたいと思います。本日は生産者の中山さんが来ておられますので、ここでは簡単に説明をさせていただきます。まず、いぐさは12月に植え付け、大体6月中旬から7月中旬頃に収穫という流れになっております。収穫したいぐさをで泥染めして乾燥します。その後加工作業に入り、選別、製織して畳表となり出荷。農家の中で畳表まで加工して出荷というのが流れです。植え付けが12月、収穫が6月から7月ということで寒い中に植え付け、収穫時期が暑い時期ということで、この時期がいちばん大変な作業です。

図10 次に畳表の現状です。畳表は国産畳表、輸入畳表、工業畳表に分けられます。現在の畳表のシェアというのが熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会の推計値によりますと国産表が約20%、輸入の畳表が50～55%、工業畳表が20～25%というところです。国産の畳表のシェアはかなり低いのが現状です。

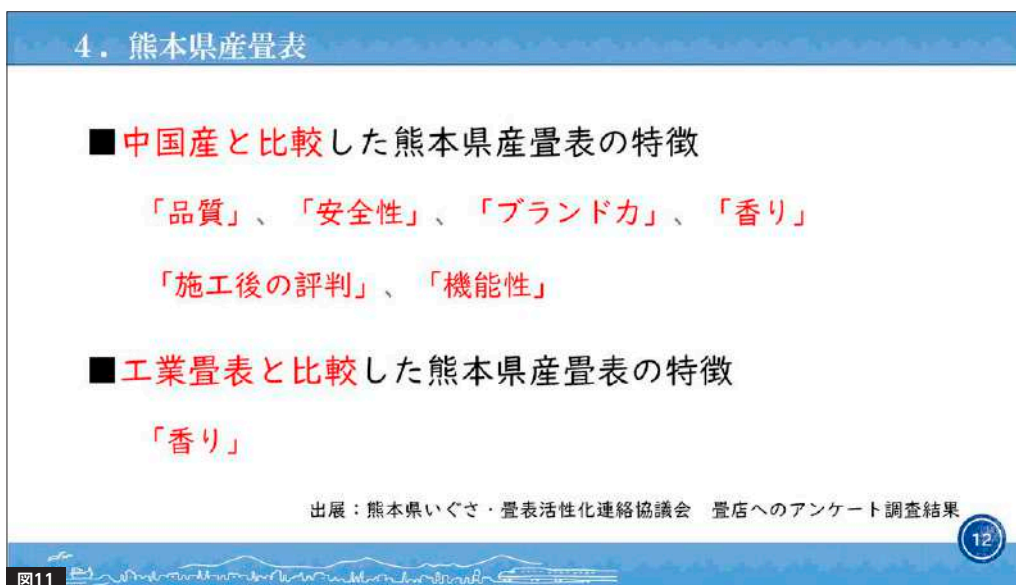
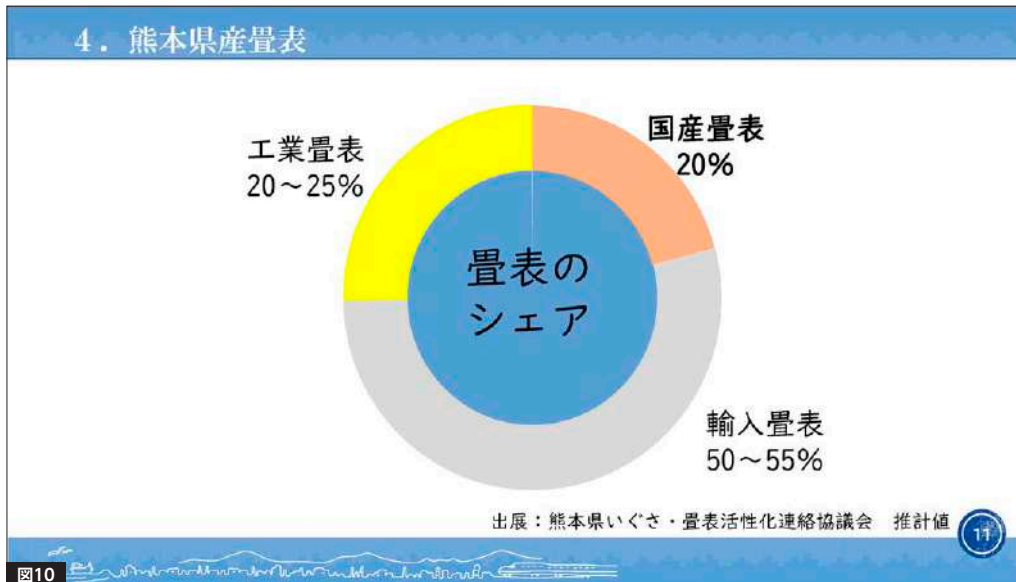


図11 令和3年に実施した協議会からの畳店へのアンケート調査によりますと、中国産と比較した熊本県産畳表の特徴は、品質、安全性、ブランド力、香り、施工後の評判、機能性が挙げられておりました。中国産と比較した場合は大きな優位性を持っています。また工業畳表と比較した場合、特徴として香りというのがいちばんに挙げられております。工業畳表と比較した場合、工業畳表より特徴が少ないというのが現状です。

図12 畳表のランクです。熊本県産の畳表というのは最上級から下級品まであります。最上級品であれば色目や茎の太さが揃っていて傷のないいぐさを織り込んでいるため、退色したとききれいな餡色となり、見た目もきれいで長持ちします。下級のものは時間が経つにつれて黒い筋が目立ってきます。

図13 畳表はいぐさの根の部分と先端部分を除いた中央部分を使用しているので、太さが揃っていて茎の密度がしっかり詰まっているいぐさを使用した畳表が良い畳表と言われています。熊本県では長さ、重量、色合いなどによって規格を決めております。大体の長さでいきますと最上級が140cm以上、上級用が130cm以上という段階に分けています。

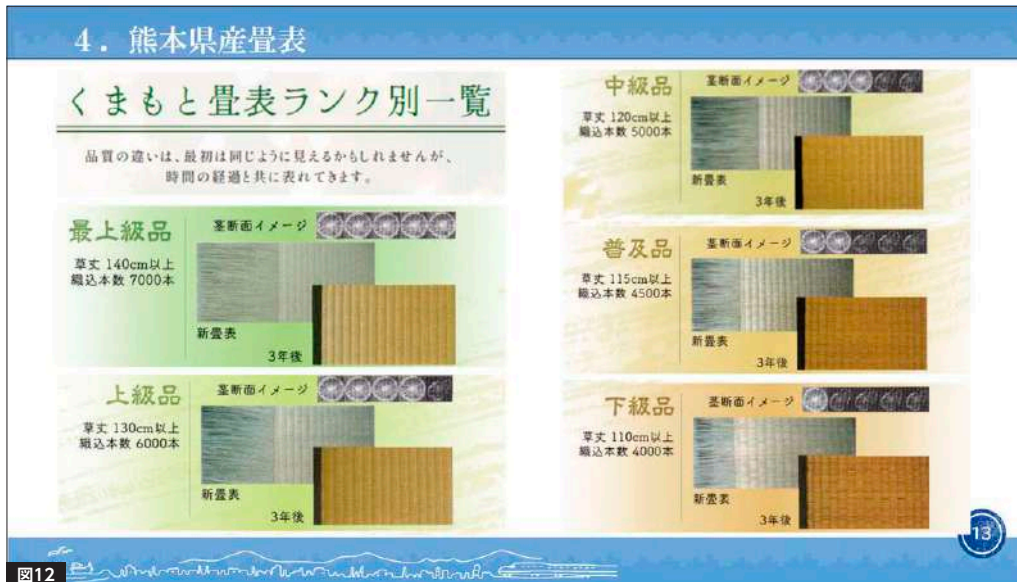


図12

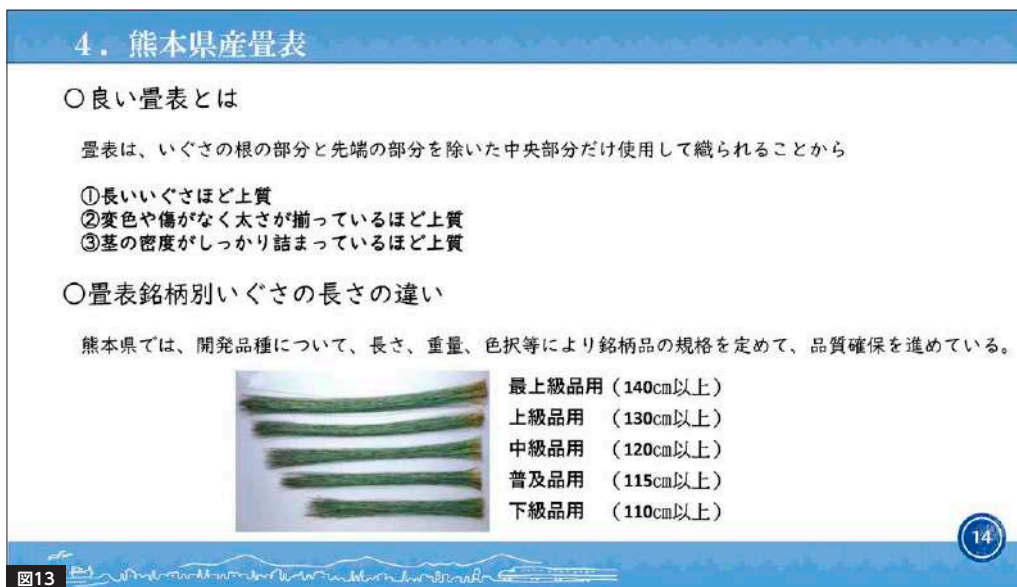


図13

図14 ～ 図17 熊本県産のいぐさ畳表は、安心安全はもちろんのことですが、さまざまな機能性を持っています。まず第1に空気清浄化機能です。熊本県の産業研究センターでの試験により、酸化窒素やホルムアルデヒド、アンモニアなどの有害物質の吸着性が高いという結果が出ています。

第2に保温断熱性の機能を持っています。いぐさの断面はこの資料の通りスポンジ状になっています。その中に空気がたくさん含まれており、布団のように適度な温度を保てます。

第3は芳香性です。畳表の匂いはいぐさの持っている干草の香りと泥染めに使う染土がブレンドされたものです。この香りが嗅覚的にも優しいと言われています。この香りにはリラックス効果や安眠効果があると九州大学の試験によって証明されています。

また、北九州市立大学の森田教授の研究で、畳を敷き詰めた教室とフローリング教室で簡単な算数の問題を解いてもらったところ、正答率、回答率が畳教室の方が良かったという結果が出ていますので、集中力持続効果もあることがわかっています。

第4に吸音性です。タイヤを使った試験で、床表面に柔らかい素材を使うことで衝撃音が吸収されることがわかっておりまして、床に畳を敷くことで音が軽減されます。また日本建築総合試験所の協力で行ったところ、軽量の衝撃音、重量の衝撃音ともに吸収率はおおむね良好という結果も出ています。

5. 熊本県産いぐさ畳表の機能性

1

空気浄化

大気汚染の原因となっている二酸化窒素やシックハウスの原因とされるホルムアルデヒド等を吸着する機能を持っています。



(熊本県産業研究センターでの試験結果より)

2

保温・断熱性

い草の断面は、スポンジのようになっており、その中に空気がたくさん含まれていますので、羽根布団みたいに適度な温度を保ちます。

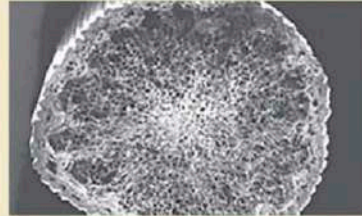


図14

15

5. 熊本県産いぐさ畳表の機能性

3

芳香性

畳表の匂いは、い草本来が持っている「干し草の香り」泥染めの時に使う「染土」がブレンドされたものであり、この香りが嗅覚的にも優しいと言われています。



(九州大学清水教授、北九州市立大学森田教授試験結果より)

4

吸音性

タイヤを使った実験では、床表面に柔らかい素材を使うほど、衝撃音が吸収されることが分かっており、床に畳を敷くことで音が軽減されます。



(日本建築総合試験所での試験結果より)

図15

16

5. 熊本県産いぐさ畳表の機能性

5

湿度調節

い草畳表＋ワラ床の6畳間では、約3リットルの吸湿能力があるといわれており、乾燥してくると水分を放出してくれるので、自然の湿度調整機と言えます。



(熊本県産業研究センターでの試験結果より)

6

弾力性

畳は弾力性に優れ、発育期のこどものバランス感覚を養うのに効果的だと言われています。



(熊本県立大学居住環境学科での試験結果より)

図16

17

5. 熊本県産いぐさ畳表の機能性



図17

第5に調湿の機能です。いぐさの畳表+ワラ床の6畳間では約3ℓの吸湿能力があると言われております。乾燥してくると水分を放出しますので、自然の湿度調節機能と言えます。また、県の産業研究センターでの試験では、天然のいぐさの畳表は5%から21%の範囲で除湿を繰り返す機能があることも確認しております。

次に弾力性です。畳は弾力性に優れており、発育期の子どものバランス感覚を養うのにも効果的と言われています。

8番目に抗菌機能です。北九州市立大学の森田教授によりますと、いぐさには水虫の原因となる白癬菌や足の匂いの原因となる微生物、大腸菌のO157などに対して抗菌効果が解明されております。いぐさは日本最古の医学誌「医心方」という書物に薬草としての機能が記載されています。昔から抗菌機能を利用していることがわかっております。このようにいぐさ畳にはたくさんの機能があります。

4つの課題—需要拡大、担い手、機械、資材の問題



図18

図18 産地の課題です。いぐさ産業の課題は大きく4つに分けられると考えています。担い手の問題、機械の問題、資材関係の問題、需要拡大の4つです。すべてを解決していかなないと産地の存続が難しいと本市は考えています。


6. 産地の課題（担い手）

現状

- ・ 農家戸数の減少（熊本県 HI 5,237 戸 → R5 296 戸）
- ・ 後継者不足（熊本県 後継者がいる農家戸数 52 戸 R5調査）
- ・ 苗割等の労働力不足
- ・ 生産者の高齢化（経営主の平均年齢 59 歳）

生産者等の声

- ・ このまま機械がなくなれば後継ぎが、いぐさ農家はなくなる。将来が不安。
- ・ ポットでやっているがその苗作りをしてくれる人達が高齢化し、いつまで出来るか心配。苗が出来ないと続けることは難しい。
- ・ 価格があがらないと、イ草農家の未来はない。
- ・ いぐさ栽培をもう少し続けたいが、機械が高くて廃業せざるえない状態です。日本文化が消えるかも！



20

図19 担い手の課題といたしましては、農家戸数が減少していること、後継者も少ないこと、労働力が足りないこと、生産者の高齢化等が挙げられます。農家戸数の維持は、後継者がいないと産地としての存続・維持はできません。また労働力不足になると生産自体ができなくなるので、後継者や労働力不足の解決は大きな課題となっています。


6. 産地の課題（い業専用機械）

現状

- ・ 専用機械の製造中止、部品不足
- ・ 部品代、修理費用の高騰
- ・ 織機業者等の高齢化、後継者不足

生産者の声

- ・ 機械修理業者が少ないし、すぐには来てくれない。
- ・ 部品代などかなり高い。
- ・ 現在所有している機械の部品が、今後供給してもらえないのか心配
- ・ このまま機械がなくなれば後継ぎやいぐさ農家はなくなる。将来が不安。
- ・ ハーベスターの点検費用が高い。



21

図20 次に、い業用専用機械の課題です。専用機械がほとんど製造中止となり、修理しても部品代や修理費用が年々上昇しています。織機に必要なメンテナンス業者自体も高齢化や後継者不足を抱えているのが現状です。

図21 資材関係としては燃料、肥料、経糸など輸入に頼っているものが多く、価格も年々上昇している状況です。生産コストの上昇は、農業者の経営にも大きな影響を与えてきます。また、いぐさの泥染めに使う染土、経糸の業者自体も産地が縮小するにつれて減っているのが現状です。

図22 需要拡大については、和室全体の需要が減っているということと、工業畳表の消費が増えていることなどによって、いぐさ畳表の需要が減少しております。需要を拡大して収入を確保するというのは大きな課題です。

6. 産地の課題（資材関係）

現状

- ・ 燃油、肥料、資材費の高騰
- ・ 経糸の供給が不安定
- ・ 染土、経糸業者の存続



生産者等の声

- ・ 資材の高騰に畳表の値段が上乗せできない。
- ・ 経糸代の補助が必要
- ・ 麻糸の品質が悪い。（最近では良くなって切れなくなったとの声もあり）
- ・ 綿糸だけでもよいのでは。
- ・ 経糸業者については、麻が1社、綿が2社、染土業者についても2社しかおらず、いぐさ農家数が減少していることから、存続がどうなるか不安がある。（JA）



22

図21

6. 産地の課題（需要拡大）

現状

- ・ 和室全体の需要減
- ・ 工業表の消費の増加
- ・ 中国産の生産、輸入量は減少傾向
- ・ 「涼風」の増加による「ひのみどり」の数量不足
- ・ 「涼風」の規格の少なさ



生産者等の声

- ・ 新築住宅については、国産表を使う事は少ないとのこと。張替だけでなく新築も国産を使ってもらよう努力してもらいたい。
- ・ いぐさ、ござの品質、価値がみえてこないのが心配。もっと売れる方法を考えないと、もたない。
- ・ 新しいニーズも考えなければならない。
- ・ 生産者も今以上に品質の向上に努めなければいけない。
- ・ 畳店の多くの方、畳表が厚いと言われていたのに、生産者全員がもう少し重量を落としてもいいんじゃないかと思った。
- ・ 生産者のい草の生産工程などの変動を畳店に分かってもらう事も大事



23

図22

課題解決のための知恵とアイデア

図23 ～ 図25 現在行っている産地の取り組みを簡単にご説明させていただきます。まず八代市の取り組みです。機械老朽化や撤退などがありますので、機械の長寿命化が必要です。八代市では機械の修理、オーバーホールの費用について一部補助を行っております。また、需要拡大とトレーサビリティとしてQRコードを畳表にいま入れています。この普及をはかるために、住宅や観光施設などの畳の張り替え、新調に対して1畳当たり1,000円の補助を行っております。また資材の高騰などもありますので農業者の負担軽減のため、令和4年と令和5年に燃油価格の上昇に対する補助と、畳表の製織に必要な経糸の購入補助も行っています。畳表の需要拡大などには市町村が持つ公共施設の張替えなども八代産表や国産の表を使用してもらうため、熊本県の各市長へ八代市長がお願いし、その後職員で各市を訪問して使用の要請を行っております。

7. 産地の取組

(1) 八代市の取組

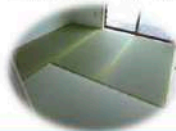
① い業機械再生支援事業

- ・い草の専用機械の老朽化、機械メーカーの撤退等により、い業専用機械の長寿命化が必要であるため実施。
- ・い草の専用機械再生（修理・オーバーホールなど）に要する費用の1/2を助成
- ・機種により補助上限を設定。
 上限20万円：ハーベスタ、織機、乾燥機、移植機、
 上限10万円：上記以外はい業専用機械（選別機、苗掘取機など）



② 畳張替え助成事業

- ・畳の需要が減少している中、畳表の需要拡大とトレーサビリティとしてのQRコード付きタグの普及を図るため実施。
- ・市内在住者や市内観光関連施設の代表者等が行うQRコードタグを挿入した八代市産畳表による張替え及び新調に対する助成。
- ・補助金額は1畳当たり1,000円
- ・一般住宅と観光関連施設で上限を設けている。
 ◇一般住宅 1畳当たり1,000円。上限16畳（16,000円）
 ◇観光関連施設 1畳当たり1,000円。上限110畳（110,000円）



QRコード付きタグ

図23

24

7. 産地の取組

③ 工芸作物燃油価格高騰対策事業

- ・国の臨時交付金を活用し、令和4年度、令和5年度に実施。
- ・対象となる油種は乾燥等に使用したA重油及び灯油
- ・対象期間はいぐさ、葉たばこは4月1日～8月31日、茶は4月1日から10月31日
- ・補助単価はいぐさ、葉たばこは値上がり分の1/2。茶は値上がり分の1/4



④ 畳表経糸価格高騰対策事業

- ・国の臨時交付金を活用し、令和5年度に実施。
- ・対象となる経糸は天然繊維（麻、綿）。ただし、綿糸については、綿以外の繊維の混紡率が50%未満のもの。
- ・対象期間は令和4年10月1日から令和5年9月30日に納品・購入したもの
- ・補助金額はシングルの経糸が購入費の10.0%、ダブルの経糸が購入費の11.8%

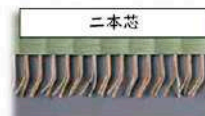
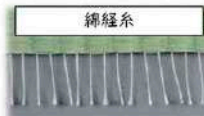
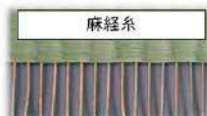


図24

25

7. 産地の取組

⑤ 公共施設等への八代市産畳表の使用に係る要望

【目的及び概要】

- ・八代産畳表の需要拡大のため、国や県、市町村の公共施設で八代産畳表を使用してもらう。
- ・令和6年10月に開催された令和6年度熊本県市長会秋季定例会において、熊本県の各市の公共施設で使用されている畳について、八代産畳表による張替えをしていただくよう市長よりお願いをされた。
- ・その市長のトップセールスを受け、農林水産部にて改めて各市を訪問し、産地の現状、畳の効能等を説明し、改めて八代産畳表の使用の要請を行った。

【要請日程】

- ・11月7日 水俣市、人吉市
- ・11月12日 上天草市、天草市
- ・11月13日 熊本市、阿蘇市
- ・11月14日 荒尾市、玉名市、山鹿市
- ・11月20日 宇土市、合志市、菊池市

【反応 等】

- ・生活様式の変化や中国産の輸入量増により、国産畳表の需要減は知っておられたが、ピーク時と比べて20分の1以下に減っていることに驚かれていた。
- ・いずれの市も、趣旨を理解いただき、可能な限り協力する旨の話を頂いた。
- ・国産畳表の現状を知り、市有施設だけでなく、市職員や観光施設等へ県産畳表での張替に努めるよう周知いただいた。

図25

26

7. 産地の取組

(2) 熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会の取組

■協議会の概要

【目的】

熊本県内のいぐさ・畳表関係機関相互間の協調を図り、生産・流通・販売に関する事業を集約的に実施し、いぐさ・畳表産地の活性化と安定的振興に寄与する。

【構成団体】

生産者代表、八代地域農業協同組合、熊本宇城農業協同組合、熊本県いぐさ生産販売振興協会、熊本県いぐさ協同組合、熊本県畳製品卸商業協同組合、私設市場会、J A いぐさ原草入札協力会、熊本県畳工業組合（八代支部）、有限責任事業組合 城南畳睦会、熊本県織機組合、熊本県整経振興会、熊本県農林水産部 農産園芸課、熊本県農業研究センター アグリシステム総合研究所、熊本県県南広域本部 農業普及・振興課、宇城市、氷川町、八代市



熊本県産畳表マスコットキャラクター
たみ童子の「たみみ」

図26

27

7. 産地の取組

①生産振興事業

■いぐさ機械の製造再開・導入に向けた取り組み

- ・クボタへの製造再開要望活動（いぐさハーベスタ、カセット式移植機）及び製造条件の協議など
- ・いぐさ機械再生プロジェクト会議による導入希望調査、生産者説明会など
- ・農林水産省への導入支援に対する要望活動
- ・選別機のツメの再生産について、業者と協議を行っている。

<ハーベスタの導入実績>

導入年度	導入数	事業費
平成29年度	29台	210,994千円
平成30年度	35台	254,648千円
令和元年度	59台	428,326千円
計	123台	893,968千円

<移植機等の導入実績> 導入年度：令和2～3年度

	導入数	事業費
いぐさ移植機	88台	667,920千円
いぐさ苗処理機	86台	187,308千円
カセット	9,485個	99,118千円
計		954,346千円

図27

28

図26 図27 次に熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会の取り組みです。こちらはいぐさ畳表に関係ある生産、流通、販売および行政機関など、18団体で構成しております。この協議会で生産から流通販売に関する事業を集約的に実施しているところです。おもな取り組みとしてまず、生産事業として、機械の製造再開導入への取り組みを行っています。ハーベスターやカセット式の移植機の要望活動や製造条件の協議などを行っています。現在、選別機の爪というのも問題になっており、業者と協議を行っているところです。

図28 畳表の技術向上やいぐさの経営の改善に役立てることを目的に、生産者を対象とした研修会などを行っており、高品質な畳表のための加工講習会や、大規模経営のいぐさ生産者の事例を紹介するイブニングセミナーなどを実施しております。

図29 流通拡大事業として、いぐさの畳表の専門家を講師として派遣する派遣事業やイベントでの畳表のPRなどを実施しています。また県産畳表には県産畳表の証でありトレーサビリティとしての機能を持つQRコードタグを導入しております。QRコードを読み込んでいただくと、農家さんの写真や栽培状況などがわかるという仕組みになっています。

図30 全国いぐさ産地協議会の取り組みがございす。全国いぐさ生産団体連合会、全日本畳事業協同組合、八代地域農協と活性化連絡協議会の4団体で構成しています。いぐさの産地を持続的に発展させることを目的としてさまざまな事業を行っています。

7. 産地の取組

■生産者を対象とした研修会等

- ・ 原草の選別（寸抜き）方法及びかし量、畳表品質や織機のメンテナンスなどの加工講習会
- ・ 乾燥時における燃油消費量削減のためワイヤレス温湿度センサ及びクラウドを活用した水蒸気量の見える化の実証試験
- ・ 大規模経営しているいぐさ生産者（3名）の事例をトーク形式で紹介する、いぐさ産地の未来を考えるイブニングセミナー など



図28

29

7. 産地の取組

② 流通需要拡大事業

■講師派遣事業

- ・ 認定畳表アドバイザー研修会（九州大学農学研究院 清水邦義准教授）
- ・ 京都畳技術競技会での畳表展示説明（い業部 古川副部長、他4名）
- ・ 建築士の為の畳の勉強会in大阪（北九州市立大学 森田洋教授） など

■QRコード付きタグの推進

- ・ 『くまモン』のQRコード付きタグで熊本県産畳表をアピール

■九州国際スリーデーマーチ

- ・ ミニ畳作り（3日間合計150個）、PRチラシ、冊子の配布など

■熊本県産畳表応援店事業

- ・ QRコードによる生産者情報や畳仕様書による商品説明などで熊本県産畳表のブランドの価値を高める取り組みに賛同いただいた畳店を認定（認定件数=196件 令和6年12月末現在）

■その他

- ・ みんなの家への置き畳の寄贈（令和2年度豪雨災害の被害を受けた人吉市等6か所のみんなの家へ寄贈）
- ・ 張替キャンペーン事業
- ・ 熊本秋酒まつり、新酒まつりへの協賛（畳100帖を敷いた大広間を設置）
- ・ 農林水産大臣賞受賞畳表の展示（農林水産省、熊本県庁）、赤ちゃん畳ハイハイ大会の実施



図29

30

7. 産地の取組

（3）全国い産業連携協議会の取組

■協議会の概要

【目的】

いぐさ・畳表生産者と畳製造業者その他の事業者とが、提携して、国産畳表の特徴を活かした、消費者に評価してもらえる新たな国産畳表、い・畳製品の開発・生産・販売を共同で行う仕組みを構築し、いぐさ産地を持続的に発展させる。

【構成団体】

全国い生産団体連合会
全日本畳事業協同組合
八代地域農業協同組合
熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会



図30

31

7. 産地の取組

① 畳店への研修会

【目的】

国産畳の販売力を有している畳店の情報を共有し、畳店の国産畳販売力を強化することで、国産畳の需要拡大を図る。

【令和6年度】

消費地での畳表提案力アップ研修会（年7回予定）

- ・畳表見分け方 「表替え価格のAとBの〇〇円の価格差で数年後にこれだけ 耐久性、美しさが違います」と価値の違いを提案

- ・国産畳表販売において参考になる事例として講演会開催

<開催実績>

令和6年8月22日 宮城県仙台市、令和6年8月30日 北海道札幌市

令和7年1月7日 東京都、令和7年1月8日 栃木県宇都宮市

（予定）

令和7年2月20日 兵庫県神戸市、令和7年2月21日 愛知県名古屋市、令和7年3月7日 広島県広島市



図31

図31 畳店への研修会等を実施しています。こちらは国産畳表の販売力を有している畳店の情報を共有して国産畳表の販売力を強化することで国産畳表の需要拡大をはかるために行っているものです。今年度は合計7回を計画して、いままで4回実施しております。ちなみに明日神戸市、あさって名古屋市で開催する予定です。内容としては畳表の見分け方とか事例紹介等になっています。

7. 産地の取組

② 生産者の畳店への研修会

【目的】

国産いぐさ・畳表の更なる需要拡大を図るために、産地の生産者は、消費者のニーズにあった製品づくりを、実需者である畳店は、国産畳販売力の強化を目的としている。

【令和5年度実績】

各畳店に分かれ畳作製から納品までの体験を行い、その後意見交換を実施。

- ①京都府（いぐさ・畳表生産者 4名）
- ②宮崎県（いぐさ・畳表生産者 18名）
- ③神奈川県（いぐさ・畳表生産者 4名）



図32

図32 生産者の畳店への研修も行っております。国産のいぐさのさらなる需要拡大をはかるために、生産者は消費者に合わせた製品作りを目的としております。需要者の畳店も農家さんと意見交換することで販売力の強化をしようという目的です。

図33 国産のPRとして、令和5年に開催されたG7宮崎農業大臣会合やG7の広島サミットなどでの和室展示や、畳を床に敷いて行うイベントの開催や、赤ちゃんハイハイ大会などを行っております。

図34 八代産畳表認知向上・需要拡大推進協議会があります。この協議会は畳関連事業者や建築関連の事業者、生産者団体、畳文化振興団体、行政団体の計8企業団体で構成しており、官民が連携して八代産畳表のPR活動を広く行い、また消費者の視点に立ち、これまでにない方法で全国に情報を発信して認知度向上をはかり、事業を拡大する取り組みを行っております。

7. 産地の取組

③ 国産畳表のPR

- ・G7宮崎農業大臣会合、G7広島サミットでの和室展示及びPR動画放映によるPR
- ・農林水産省、銀座熊本館、熊本県庁等でのいぐさ製品の展示
- ・畳表見本帳、PR動画の作成及び配布（学校関係、熊本産畳表応援店、建築関係団体等）
- ・名古屋市での100畳敷イベントの開催
- ・畳の上での赤ちゃんハイハイ大会の開催

④ 調査関係

- ・中国におけるいぐさ生産実態調査
- ・生産者へのいぐさ・畳表専用機械・資材の実態調査

⑤ いぐさ・畳表のデータ収集

- ・温湿度センサー等を活用した効率的ないぐさ乾燥技術実証



図33

34

7. 産地の取組

(4) 八代産畳表認知向上・需要拡大推進協議会の取組

■協議会の概要

【目的】

本協議会は、官民が連携し、八代産畳表のPR活動を広く行い、認知度の向上・需要の拡大を推進し、畳産業の活性化を通じた「い産業の活性化」「日本の伝統である畳文化の保護、継承」に寄与することを目的としている。

消費者の視点に立ち、これまでにない方法で全国に情報を発信し、八代産畳表の認知度向上を図り、需要を拡大させるための取組を行っている。

【構成団体】

畳関連産業事業者 建設関連事業者 生産者団体
畳文化振興団体 行政機関 計8企業・団体で構成



YATSUSHIRO
TATAMI

図34

35

7. 産地の取組

① ひよこクラブとのタイアップ記事（株式会社ベネッセコーポレーション）

- ・月刊誌「ひよこクラブ」へ特集記事を4回掲載し、その記事をまとめたミニブック1万部を、市内の保育園や幼稚園などに配布した。
- ・畳で子育てをしている女優『野村佑香』氏とのタイアップ特集を記載した。
- ・野村氏の畳で子育ての体験談も交えた主婦目線での記事が好評であった。
- ・畳の機能効能について遡求した内容。



図35

36

図35 「ひよこクラブ」とのタイアップ記事などを取り扱っております。こちらは月刊誌でこれまで特集記事を4回掲載しております。その記事をミニブックにまとめて市内の保育園や幼稚園などに配布しております。

7. 産地の取組

② あつまれどうぶつの森を活用したPR

- ・全世界で大人気の任天堂switchのゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」を活用し、「やつしろたたみ島」を作成し公開した。
- ・畳になじみのない世代にも畳の魅力を感じてもらうためゲームを活用。全国の市町村で初めての取組として話題となった。
- ・令和2年9月24日の畳の日に併せて紹介動画を八代市公式YouTubeで公開。
【視聴回数】10,600回（1/14現在）
※令和2年12月に英語版、中国語版を公開



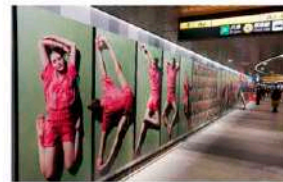
図36

図36 「あつまれ どうぶつの森」を活用したPRということで、Nintendo Switch用ゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」のなかに「やつしろたたみ島」を作成して公開しております。畳になじみのない世代にも畳の魅力を感じてもらうため、ゲームを活用して全国の市町村で初めての取り組みとし、話題になっています。

7. 産地の取組

③ YATSUSHIRO GORONE COLLECTION (八代ごろ寝コレクション)

- ・コロナ禍で家で過ごす機会が増えたことから、心身ともにリラックスした時間を生活の中に取り入れるきっかけになればと、畳の上での過ごし方として、リラックス姿勢やストレッチ方法など「計100ポーズ」を考案し、公開した。
- ・ポーズは、日本人初のヨガ世界大会のチャンピオンの三和由香利さんが考案。
- ・東京都の東急田園都市線渋谷駅に駅貼り広告として幅10メートルを超えるポスターを1週間掲示した。
- ・この取組が評価され、第60回福岡広告協会アーバンアド部門において金賞を受賞した。



東急田園都市線渋谷駅（令和2年10月）

図37

図37 八代ごろ寝コレクションの取り組みはコロナで家で過ごす機会が増えたことから心身ともにリラックスした時間を生活の中に取り入れるきっかけになればと、畳の上での過ごし方としてリラックス姿勢やストレッチ方法など合計100ポーズを考案して公開しております。東京都の東急田園都市線の渋谷駅に駅張り広告として幅10mを超えるポスターを1週間掲示しています。

図38 図39 タタミックス×プロジェクトも行っております。和室の床材として敷くだけであった畳の新たな活用方法を提案するプロジェクトです。畳にごろ寝することで音楽と心地よい振動を全身で感じる事ができる畳スピーカーを開発。令和6年の4月に販売を開始しております。現在この畳スピーカーを呼び水に八代産畳表のPR活動を展開しております。

以上が本市が関係している団体との取り組みです。これらのいろいろな取り組みをしながら産地の維持をはかっています。

7. 産地の取組

④ タタミックス TATAMI x プロジェクト

- ・和室の床材として数くだけであった畳の新たな活用方法を提案するプロジェクト。
- ・畳にごろ寝することで、音楽と心地よい振動を全身で感じることができる「畳スピーカー（TTM-V20）」を開発し、令和6年7月に一般発売を開始した。
- ・「畳スピーカー」を呼び水に、八代産畳表のPR活動を展開している。



各種イベント等で体験会を実施（令和6年10月 大丸福岡天神店）

図38

39

6. 産地の課題

（再掲）

い 業 の 課 題

担い手

農家戸数の減少
後継者不足
苗割等の労働力不足
生産者の高齢化

い業専用機械

専用機械の製造中止、部品不足
部品代、修理費用の高騰
織機業者等の高齢化、後継者不足

資材関係

燃油、肥料などの資材費の高騰
経糸の供給が不安定
染土、経糸業者の存続

需要拡大

和室全体の需要減
工業表の消費の増加
中国産の生産、輸入量は減少傾向

図39

40

8. まとめ

今後の需要拡大として、これまで行ってきた和の空間のPRに加え、現在の生活様式になじむ新たな畳の空間や、壁材・建具など、床材にとどまらないインテリアとしての畳の活用など、新築住宅に取り入れられるいぐさ畳の可能性について模索する必要があると考えている。

<今後の検討課題>

- ①生活様式にあった畳表の活用
- ②現代の住宅いぐさ製品を取り入れてもらう方法 等



図40

41

図40 まとめになります。課題から取り組みまで紹介させていただきましたが、畳の需要拡大が必要です。特に和室の減少は需要に大きく影響しており、今後の需要拡大としていままでの和室空間のPRに加えて生活様式に馴染む新たな畳の空間や壁材、建具など床材にとどまらないインテリアとしての畳など、消費者ニーズに

あった畳の可能性について考える必要があります。置き畳やベンチなどがありますがそれ以外にも生活様式にあった畳の活用や現代の住宅に取り入れてもらう方法などを検討していかなければいけないと考えております。

最後にこの講演をきっかけとしてみな様と意見交換などをさせていただきながら検討課題のヒントをいただきたいと思いますので、ご意見などがありましたら、ぜひとも聞かせていただければと思います。以上、私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会 福嶋様、どうもありがとうございます。続きまして、いぐさ生産者の中山農場の中山貴之様から話を頂戴したいと思います。

中山 貴之氏

いぐさ農家を継ぐ若い力—SNSを使って日本と世界に発信



図40 八代から来ました、いぐさをつくっている中山貴之です。よろしくお願いします。私は結婚を機に妻の実家に入り、いぐさ農家をしています。八代という場所は見渡す限りいぐさ畑ばかりで、私の実家ももともといぐさ農家でした。そのため、私は抵抗なく継ぐことができました。祖父と父母がつないできたいぐさ農家を後継者としてしっかりがんばっていきこうと思い、現在10年目になります。



図41 いぐさは種から育てるのではなく、株分けで育てます。動画で説明しましたが、小さい苗（15センチほど）

を植え、160から170センチくらいの長さになるまで育てます。

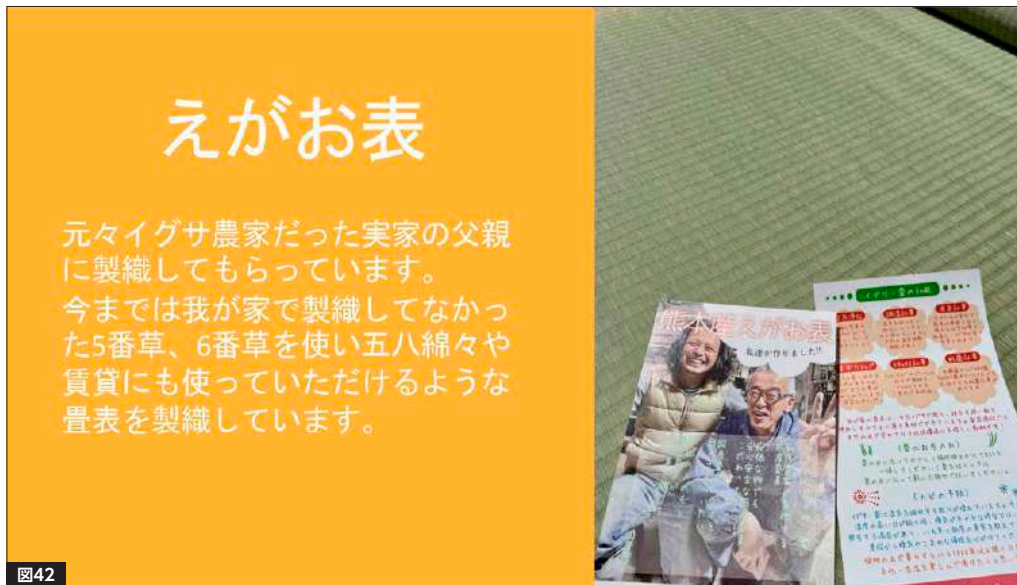


図42 収穫、泥染め、乾燥、保管などの工程を経て畳表をつくります。畳表が完成するまでには約2年かかります。畳表にはいろいろなランクがあり、いちばん長いぐさがいちばん良質な畳表になります。実家の父に復活してもらい、長い草から短い草までを畳表にして、賃貸用などの安価な畳表として使っています。



図43 2年前からSNSを使って情報を発信し始めました。まだ600軒ほどいぐさ農家があった頃から現在は200軒ちょっとしか残っていません。現状を知ってほしいという思いから、SNSを通じていぐさの現状を発信しています。

妻の実家のいぐさ農家を継いだ「イグサのタカちゃん」として、40年前から95%も減少したいぐさ農家の現状を伝えています。多くのフォロワーからの反響もあり、知らなかったことを知ってもらうことができました。

図44 図45 動画を撮り、いぐさの畑での作業を記録しています。いぐさの効果や利用法を発信し、リラックス効果や消臭効果を活用したオリジナル商品を販売しています。いぐさ農家がつくる米も販売しています。



図44

図45

ナカヤマノウジョウ ウ イグサでつくった 消臭パック

今まで廃棄していた短いイグサを使って何かできないかなと考え、少しでもたくさんの方々にイグサを感じてもらえるような商品。イグサを量としてだけではなくもっと身近に！イグサパワーを感じていただける商品としてオリジナルのスタンプとリーフレットをつけて販売を開始しました！

●●●● イグサの効能 ●●●●

空気清浄 イグサの葉が空気中の微粒子を吸着し、清浄な空気を供給します。	消臭効果 イグサの葉が臭気を吸着し、消臭効果があります。	保湿効果 イグサの葉が水分を保持し、保湿効果があります。
虫除け効果 イグサの葉が虫を寄せ付けず、虫除け効果があります。	抗菌効果 イグサの葉が細菌を抑制し、抗菌効果があります。	抗炎症効果 イグサの葉が炎症を抑制し、抗炎症効果があります。

※イグサは自然素材でつくられた消臭パックです。使い捨ての消臭パックではありません。繰り返し使用できます。イグサの葉が自然の力で臭気を吸着し、消臭効果があります。イグサの葉が自然の力で水分を保持し、保湿効果があります。イグサの葉が自然の力で虫を寄せ付けず、虫除け効果があります。イグサの葉が自然の力で細菌を抑制し、抗菌効果があります。イグサの葉が自然の力で炎症を抑制し、抗炎症効果があります。

〒869-5163
熊本県八代市三浦町1590
「イグサ」の店 代表 中山美穂
tel. 090-3991-7224

図46

OWN PRODUCTS

その他にも我が家の畳表を使って自社で縁付けも行い『ne GO ZA』としての販売も開始！

イグサと同じく減肥料減農薬で栽培するお米もオリジナルのラベルをデザインし販売を開始しました！

図46 **図47** 寝ござなども家族で手づくりしています。海外在住の日本人の方々から問い合わせが増え、海外にも発送しています。発信を続ける中で、多くの人とつながり、い草のポスターに使ってもらったり、ふるさと納税の返礼品として選ばれたりするようになりました。八代のネクストスターとして記事にされたこともあります。

37



図47

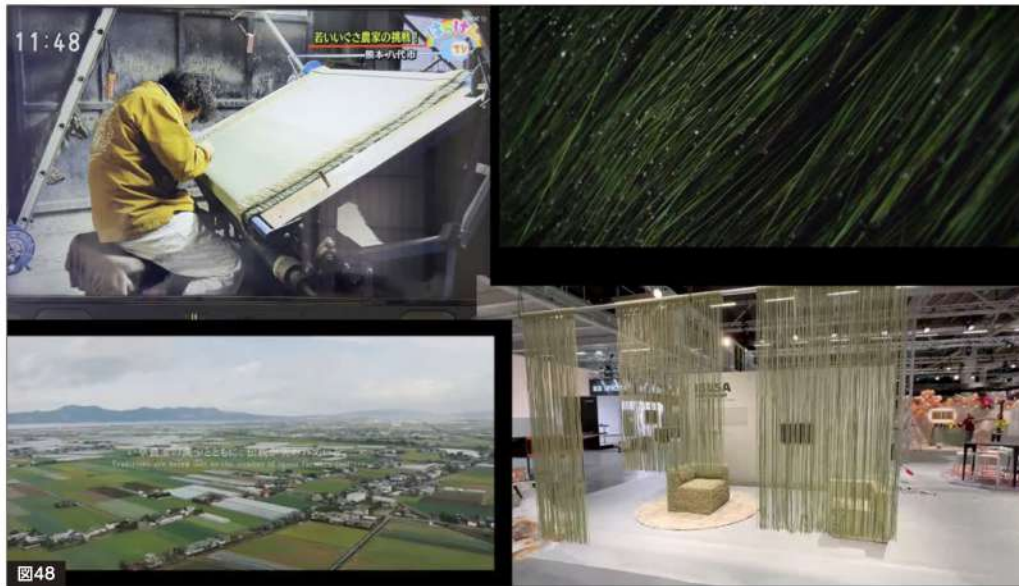


図48

図48 左上はNHKに出演した際の映像です。右上は、福岡の家具会社アダルさんが、ミラノの家具の展示会（ミラノサローネ）に出展される時の映像で、それにも出演させていただきました。左下は、また別の会社のいぐさを使ったプロダクトの映像に出演させていただいたものです。右下は、東京のデザイナーさんがいぐさのソファをつかってスウェーデンの展示会に出店され、それにわが家のいぐさを提供させていただきました。

SNSなどで発信をはじめて、たくさんの方と出会い、いぐさの良さを伝えていけることをうれしく思います。同時に、国産いぐさの危機、いぐさ量がなくなるかもしれない現実も伝え、伝統文化を守ろうとがんばっています。福島さんから話があった機械や糸の問題などもありますが、可能性もまだまだあると信じています。国産いぐさをよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

司会 中山様、国産いぐさの厳しい現状と興味深い取り組みの紹介をどうもありがとうございました。ここでいったん休憩を取らせていただきます。

（休憩）

コミュニケーション・プラザ 264 ④

「畳の普及に向けた取り組み」 ～これからの畳の在り方～

黒田 幸弘

遊民建築研究所



畳の研究活動活発化のため生産現場、建築を見学

■ 中小企業組合等活路開拓事業（平成22年～24年）

全日本畳事業協同組合が畳屋でも作れる「薄畳」の開発のオブザーバーを務める。

3年に渡り一般消費者・建築関係者にアンケートを取り、「薄畳」の仕様検討を重ね、試作をして建材試験センターにて品質基準の試験を行う。

→稲わらの「こも」を使用



「わら薄畳」！しかし、仕様に問題があり実現せず...

図1

【図1】 遊民建築研究所の黒田と申します。設計事務所を主催し、建築の設計をしております。住宅の設計、古建築の設計、あるいは保存・復元などの仕事もしております。

その中で畳とどのように関わってきたかをお話しさせていただきます。いままで生産者の立場から畳を広めるといったお話はあったのですが、生産者と消費者の間に建築士はおりますので、その中間の位置からどう畳をすすめていくかをずっと考えておりました。これからその活動の一部をお話しさせていただきます。

もともとは全日本畳事業協同組合の薄畳をつくる事業の、外部オブザーバーとして3年にわたり参画してきました。これは消費者や産地関係者にアンケートを行い、薄畳の仕様をつくるという事業です。一般の畳屋は薄畳を1つの製品として売り出していない。そのため、それを標準化して売り出そうと始めたものです。試作を重ねて、建材試験センターで品質基準試験も行いました。畳のボードの上にコモを入れ弾力性をもたせて、厚さ15mmと20mmの試作品を作りましたが、仕様に問題があり、残念ながら実現しませんでした。

【図2】 この後、全国い生産団体連合会、全日本畳事業協同組合+業界8団体、農林水産省、経済産業省が加わって、畳類公正取引連絡会をつくり、畳表に関する公正競争規約を協議することになりました。この会議に2011年より日本建築士会連合会の依頼で8年ほど外部オブザーバーとして参加しておりました。

■ 畳類公正取引連絡会

全国い生産団体連合会、全日本畳事業協同組合
 + 業界8団体、農林水産省、経済産業省が
「畳表に関する公正競争規約」
 を協議しており、2011年より日本建築士会連合会の
 依頼で8年ほど外部オブザーバーとして参加。



敷物新聞
 2011年11月20日
 第2537号より抜粋

図2

中国産のいぐさの産地偽装などの問題があり、畳表にどこ
 の産地でどのような加工がされているかのトレーサビリティ
 を構築して、畳表に公正マークをつけようという動き



■ ほぼ規約は出来上がり、運営方法を決める段階で
 一部畳店の反対により廃案となる。

■ こうしている間にもいぐさ農家はどんどん減っていき
これは自分達で畳を守り、いぐさ農家が絶滅しない
 ようにしないとイケないと思うに至る。

図3

畳を救うためにはまず畳の需要を増やさなければならない！
 需要を増やすためには、畳を知ってもらわなければならない！

1. 建築士(設計者)
2. 学生(若者)
3. 住まい手(消費者)

図4

図3 当時、中国産いぐさの産地偽装問題があり、畳表にどこ
 の産地で、どのような加工がなされているのか
 トレーサビリティを構築し、畳表に公正マークをつくる動きがありました。その中で熊本産を含む、日本産の
 畳を残す目的で会議が行われてきました。規約も出来上がって運営方法を決める段階で一部畳店の反対によ
 り廃案となりました。こうしている間にいぐさ農家が激減していきます。実際自分は設計者ですから、利害関
 係はないのですが、畳が無くなると困りますので、どうにかして畳を残したい。それで設計者としての立場で残
 せる方法を考えるようになりました。

図4 残すためには基本的に畳の需要を増やさなければならない。需要を増やすためには畳を知ってもら
 なければならない。畳について、実は知ってそうで知らない。特に若い人が知らない。そこで、3つの方向性
 を考えました。まず、建築士や設計者が知らない畳を使ってもらえないし、施主にもすすめられない。まず
 は建築士自身。それから学生、若者にももっと知ってもらおう。消費者に向けても建築士としての立場から何か
 やりたいと考えました。

1. 建築士（設計者）に畳を知ってもらい、使ってもらうようにしなければならない。

実はどのような畳があり、どのようなことができるか知らない
（仕様書～畳 中の上 ヘリなし 15）
産地？品種？縫い方？形？特性？手入れ？

- 建築士向けの「畳の勉強会」を開く
- 建築士向けの「いぐさ刈り取りツアー」を催す

図5

「畳の勉強会」

2019年東京秋葉原・2024年大阪西中島において建築関係者を集めて、畳おもてなしプロジェクト・東京都畳工業協同組合青年部・熊本県いぐさ畳表活性化連絡協議会の協力により、合計4日間にわたり「畳の勉強会」を開催。100名程が参加。



北九州市立大学
森田教授による
「いぐさの力と畳
の性能」の講義

図6

図5 1番に建築士、設計者に畳を知ってもらい、使ってもらうようにしなければならない。建築士の中でも実はどのような畳があり、どのようなことができるか結構知らない。設計という作業の中で畳を採用する時に、仕様書を書きますが、畳——中の上、ヘリなし、厚さ15ミリ。このぐらいしか書くことがないのです。大学で教育を受けても畳など教えてくれません。そこで建築士向けの畳の勉強会を開き、サンプルをたくさん持ってきてもらい、みなで見て勉強することになりました。また建築士向けのいぐさ刈り取りツアーも行いました。いぐさをつくっていることは知っているが、刈り取って泥染めして、畳の匂いは実は泥染めからきていることを多分知らない人が多い。そのためにも建築士向けの「いぐさ狩りツアー」を催すことにしました。

図6 2019年に東京の秋葉原で「畳の勉強会」を行いました。その後コロナ禍により開催できませんでした。去年大阪で建築関係者を集めて、畳のおもてなしプロジェクト、その他いぐさ関係の方の協力によって、「畳の勉強会」が再び開催されました。これまで東京で2日間、大阪で2日間、計4日間「畳の勉強会」を行い、1回に25人から30人程度、合計約100人位の建築関係者が集まりました。いぐさ博士の北九州市立大の森田教授にも直接会場に来ていただき、講演をしてもらっています。直接聞くと非常に面白く、いろいろ勉強になります。

いぐさ・畳表・縁の展示



図7

ミニ畳の制作

参加者自らミニ畳を制作して、畳の作り方を学ぶ



図8

図7 **図8** その時にひのさらさ、ひのさくら、ひのさやか、涼風、すべてサンプルを見せてもらいました。実際にいぐさを見ると実にきれいなのがわかります。またミニ畳の制作も行いました。実際に畳をつくってみると、ヘリの重要性がわかります。いぐさの曲がる方向もよくわかるので、これは非常に勉強になります。



図9

図9 今年も畳の勉強会は3月15日に名古屋で開催しますので、もし近くで来られそうな方、あるいは周辺の方をご紹介いただければ幸いです。畳の基礎知識あるいはいぐさ産地の現状、畳表の見分け方などが学べます。

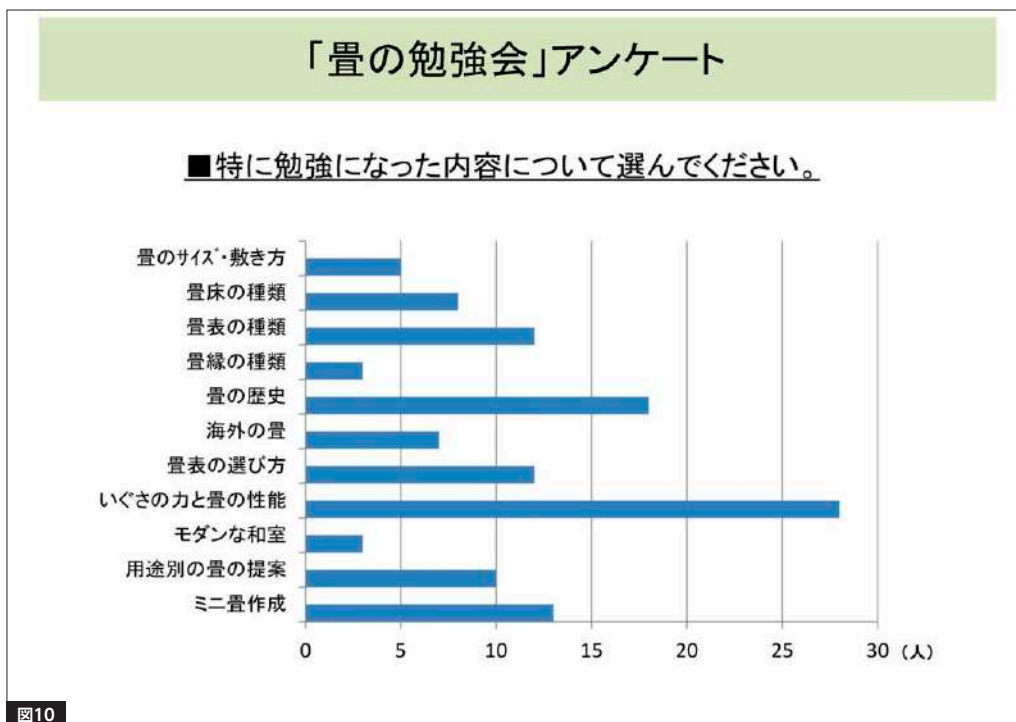


図10

図10 図11 畳の勉強会でのアンケートでは設計者が多いので、一例を見てみると「畳をどのように勧めていけばよいか理解ができた」とか「いぐさのメリットをお客様にお話ができる知識がつけば、お客さんに勧められる」などの意見が寄せられた。

①具体的にどのような内容が勉強になりましたか？

- ・今後畳をどのように動めていけば良いかが理解できた。
- ・い草の教室で集中力UPする実験、とても面白かった。
- ・カビ、ダニ対策の対応
- ・いぐさのメリット面、替えるタイミング等、お客様にお話が出来ると思った。
- ・畳の基礎知識があまりなかったで、このような機会があって良かったです。
- ・畳表の種類とその違い
- ・畳がダニに強いこと
- ・い草の能力が知らないことだらけだった。
- ・畳縁との組み合わせで見た目も変わることに感心した。
- ・抗菌作用
- ・海外で使用されている畳の物件について
- ・い草の香り成分についてバニリンの経年変化は勉強になった。

②講義を受けて畳に関するイメージは変わりましたか？

- ・畳が少なくなっている実感はあったが、可能性も感じた。
- ・畳の良さはあがった。積極的に使いたい！
- ・いろいろな使い方があると思った。
- ・もっといろいろな用途があるのではないかと広めてほしい。
- ・畳に対する効果を知り、活用先が増えたと感じた。
- ・自宅寝室で入れたいと思います。リノベでも導入増やしたいと思います。
- ・畳で育った身として知らずに助けられていたのだと認識をいたしました。
- ・もっと詳しく畳のサイズや敷き方などを聴きたい。

③この講義は今後も開催しようと考えておりますが、畳について他にどのようなことを勉強したいですか？

- ・モダン和室の提案方法など
- ・どのようにい草や畳縁が織られているのか動画で見てみたい。
- ・もっと具体的な価格帯、畳床・畳表のランク、種類、価格例などが知りたい。
- ・メンテナンス方法
- ・流通、畳屋さんへの依頼の仕方
- ・場所によってどう使うか？色をどう使うか？
- ・新しい用途、デザインを考えるような試みがあれば良いと思う。
- ・畳を作る場所や表替えなど動画が見たいです。
- ・和室の金額と重要性の費用対効果を知りたいです。
- ・断熱性、吸音性に関する他の建材との比較
- ・畳が実際に作られているところを見たい。

④どのような畳を実際に使ってみたいと思いますか？

- ・乱敷き畳を試してみたいと思った。
- ・市松模様を使ってみたいです。
- ・七島間を使ってみたい。
- ・いぐさの本畳を
- ・国産 ひのさらき
- ・減農薬
- ・簡単に表に出したりしまったり出来るオシャレな畳
- ・洋風な
- ・ひのみどりの最高品

⑤畳に対して新しい提案があれば教えてください。

- ・壁面緑化の代わりになると良いなと思いました。
- ・い草の機能に注目して、壁や天井で断熱材として、クロスで完全におおわず使えれば

図11

「いぐさ刈取りツアー」2023

2023年6月29.30日に熊本県八代市において

「いぐさ刈取りツアー」を主催。(協力:東海機器工業)
建築関係者5名、大学教員2名、畳職人1名、
司法書士1名、新聞記者1名の10名で開催。



図12

**いぐさ田刈り見学→泥染め見学→畳床工場見学
→製織工場見学→農業試験研究所見学**


図13

図12 図13 次が刈り取りツアーです。2023年6月末に熊本県八代市において、刈り取りツアーを開催しました。建築関係者5名と大学の先生2人、畳職人1名、司法書士1名、新聞記者1名の計10名で行いました。写真に写る後ろの背景は広大な八代のいぐさ田です。これだけ大規模ないぐさ田を見ることはなかなかできないので、機会をどんどんつくっていったらと思います。

次に刈り取りの現場を見せてもらい、刈り取ったいぐさを手に取って大きさや長さを実感してもらう。いぐさは約150~160cmあり、持ってもらうとみなさん愛着が湧くようです。そこから泥染めです。泥染めの作業方法をみなさんは知らないと思います。泥染めして初めて香りがつき、乾燥させていく。設計者や一般の人は初めて知ることです。

これらの工程を見る工場見学の機会を増やしいき、畳表の製造工程、畳床の製造法を見ることで、畳に関する感覚が違ってきます。本物の畳の感触を知らないと、畳を使いたいと誰も思わないのです。

図14 これは建築士のためのツアーなので、建築の見学もしています。八代市立博物館や八代消防署を設計したのは伊東豊雄という非常に有名な建築家です。八代市立博物館は一級建築士の試験でもよく出る建物です。土を盛って2階を入口にし、いちばん上の3階が収蔵庫という特殊な建築です。

図15 備後いぐさの刈り取りも行ってきました。これは広島県福山市でつくられているいぐさですが、いまや絶滅寸前です。そこで備後いぐさの刈り取りなどを見学しました。現在、生産農家は2軒しかなく、福山大学の佐藤圭一先生が地元の生産農家と備後表継承会を立ち上げて、備後表の存続に奮闘しております。備後いぐ

さの畳は非常に良い畳なので、文化財の建物やお寺に使われています。



図14



図15



図16

日本経済新聞 2023年9月3日号 朝刊 文化時評

図16 今回ツアーに参加した日本経済新聞の記者に「畳文化は生き残れるか」というテーマで文化時評を書いてもらっています。



図17

図17 刈り取りツアーは、今年も企画をしております、今度は「国東・七島いぐさ刈り取り見学会」です。大分県国東市に刈り取りの見学に行くということで、8月後半に予定しています。昨年度も行く予定はありましたが、台風が九州に上陸して中止に追い込まれました。当地のいぐさは写真にありますように、茎の形が三角形です。普通のいぐさは丸いので感触がまったく違います。七島いはゴツゴツした感じで、なかなか手に入らない畳表なので、見に行く価値はあると思います。

若者に向けての畳教育—新しい発想で畳の間をつくる課題

図18 若い学生さんに畳を知ってほしいので、学校教育として特別授業で畳の授業をやらせてもらっています。建築・インテリアの専門学校で、畳の空間コンペを行っています。学生は最初、畳は祖母の家やお寺など、古臭いイメージしかありません。しかしそこから畳に関して色々なことを教えたり、サンプルを見せたりしていくと、だんだん畳に興味を持ってきます。

図19 課題の一部として「畳の間」を作ることに取り組んでいます。日本の文化では畳が失われているのが現状です。そこで畳を使って誰もが落ち着けてくつろげる空間をつくり、畳の良さを再認識するというテーマです。6畳ぐらいの空間に半畳畳2枚から4枚敷いて、落ち着ける空間をつくる課題です。学生はグループで案をつかって、それを何回かエスキースを重ねます。プレゼンテーションの中では図面と模型をつくり、最後に発表をし

てもらいます。その中で1位になったグループの作品を実際に制作し、それを文化祭で展示するという授業を行っています。

2. 学生に畳を知ってもらい(学校教育として) 将来畳の部屋に住んでほしい。

畳はおばあさんの家、お寺に敷いてあるイメージで、古臭いイメージしかない。



■建築・インテリアの専門学校で「畳の間」空間コンペを催し畳の授業を行う。

図18

■特別授業 課題(畳の間をつくる)

日本の住宅にある畳が現在どんどんなくなってきており、このままでは日本の文化でもある畳が失われていってしまいます。そこでこの畳を使い、誰もが落ち着いてくつろげる空間をつくり、畳の良さを再認識できるようにしてください。

地下の工務に作られる木の地下空間を畳の間としてリフォームする。(右図イメージ参照) 薄い畳の半畳(850×850×15)を2〜4枚敷き、落ち着いてくつろげる空間をつくる。床は畳部分と他の床仕上げを制作し、壁もどのような仕上げにするかを考えて設計する。最終的に完成した作品はいつでも展示できるようにし、実際に畳に上がれるようにして、その空間を味わってもらおうこととする。そのため安全で楽しい空間をつくるようにすること。

まずグループごとに制作する空間のプレゼンテーションを図面・模型・パソコン等で行い、その中で一番良いものを実際に制作可能にするものとする。その空間をつくるのに必要な材料は学校側で用意することとする。(LED照明の使用は可とする)今回の仮材料制作費は約5万円として、予算表を作成するものとする。

図19



図20



図21

図20 最初は全然興味が無いようですが、だんだんやる気になってきて、いろいろなことをやるようになります。その変化を見ると結構面白い。その中で完成した作品がこちらです。上は令和3年度作品で、畳の高さをいろいろと変えて、いろいろなところに空間をつくらうという作品です。下の作品は、奥の方に向かって歩み寄り、座って落ち着こうという作品です。結構それなりの出来だと思います。

図21 今年の作品がこちらで、蓮華座というタイトルです。奥で座禅をすると、後光が射して、瞑想空間になるようにつくっています。すごいのは蓮の形に畳をつかった所です。例年は通常の四角い畳を畳屋さんに頼んでつくってもらっていたのですが、今回は自分たちでつくるということで、畳屋さんを呼んでつくり方を相談しました。この形の畳のつくり方は畳屋さんも悩んでました。結局、生徒だけでなんとかつくりあげました。

図22 図23 生徒に授業の最後にアンケートを取って、自宅に畳の有無などを調査しました。大体半分以上の家に畳があるので、まだ大丈夫という感じです。畳が好きかとの問いには、好きが多い。独特な香りや寝転がれるのいいが、嫌いなところは掃除にくい。その他、畳のイメージが変わったかとの問いに、「変わった」が42%なので、授業をやって良かったなと思います。面白かったのが、「畳イコール和のイメージが固定していたが、洋風も取り入れられることにとても驚いた」という意見があったことである。

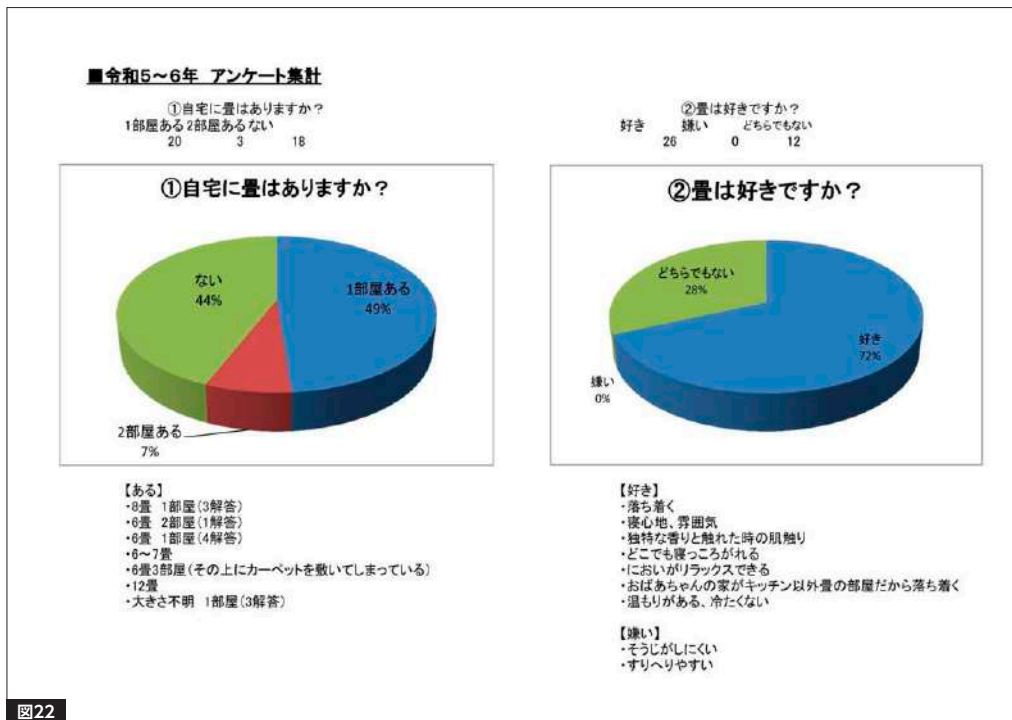


図22

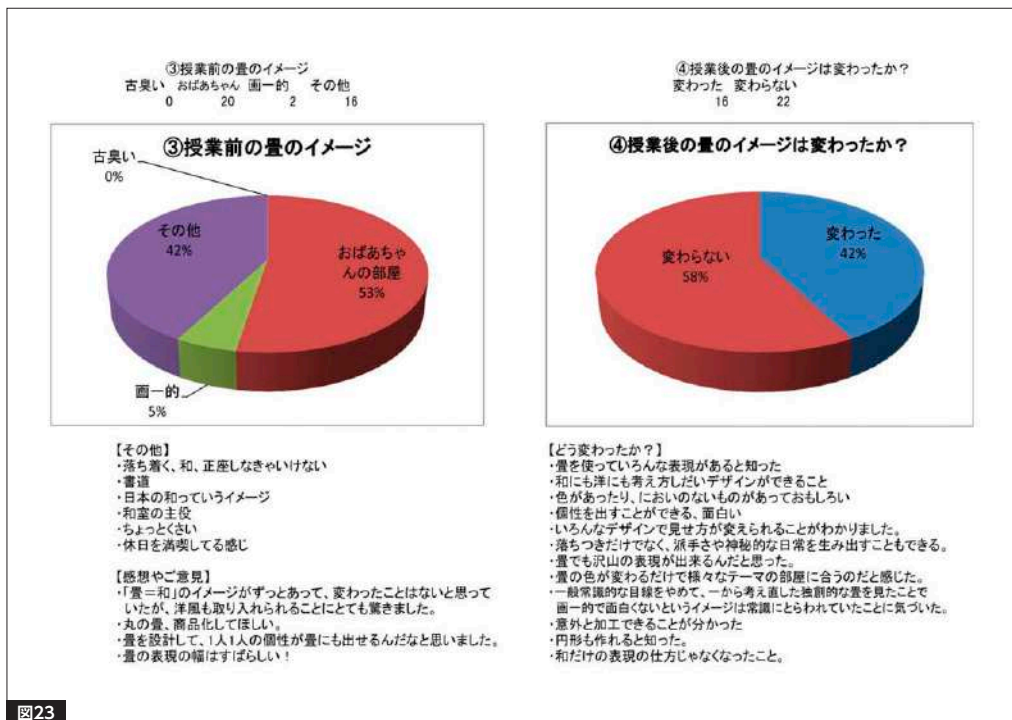


図23

図24 いわゆる畳イコール和室ではないということです。日本は靴を脱ぐ文化があるので、畳でも洋室に使えるのではないかと。「畳で洋室をつくる」というコンペをしたら面白いと思います。いま、専門学校生18歳～20歳あたりを教えているので、中高生や小学生にも畳を伝えられたら面白いかなと考えています。現在、出身の中学・高校で営繕工事の仕事もしているので、現場で畳を教えたらどうなるか。それと小学生にも広げたいと思っています。具体的には、港区の区議会議員さんと、港区の子どもたちに教える方向で話をしております。

「和で洋をつくる」 「どちらかというと洋室より」

＜生徒によるイメージ＞

畳がありながら洋風な雰囲気を
もった空間を演出した。
可愛い空間の洋の中に紛れ込ん
だ和をイメージした新しい形の和室

今までの固定観念にとらわれず
新しい畳の形使い方があるので
はないか

畳 ≠ 和室

※中高生、小学生にも畳を伝える計画中

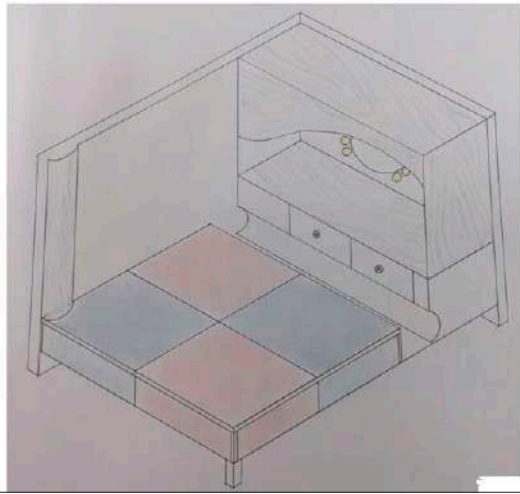


図24

一般消費者に畳を知ってもらい、畳の部屋をつくってほしい

3.住まい手（一般消費者）に畳を知ってもらい、 畳の部屋をもっとつくってほしい

畳は古臭いというイメージを一新して、
モダンな空間も作れるということを認識してほしい。

■建築雑誌に畳の空間を掲載して、モダン
な空間もできることを広める

■天然いぐさの畳のパフレットをつくり、
家づくりの際に利用してもらう。

■畳を理解して、広めてくれる協力者を集い、
横方向に広げていく。

図25



図26

「チルチンびと」116夏号掲載 風土社

図25 住まい手（一般消費者）に畳の部屋をもっとつくってほしいと思っています。畳は古臭いというイメージを一新して、モダンな空間もつくれるということを認識してほしい。僕は建築家なのでいろいろな使い方ができ、畳もモダンに使えるということをさまざまな例で見せたいと思っています。たとえば建築雑誌に畳の空間を掲載して、モダンな空間もできることを広める。あるいは天然いぐさの畳のパフレットをつくり、家づくりの際に利用してもらう。また畳を理解し、広めてくれる協力者を募り、横方向に広げていく。この3つをテーマに考えてみました。

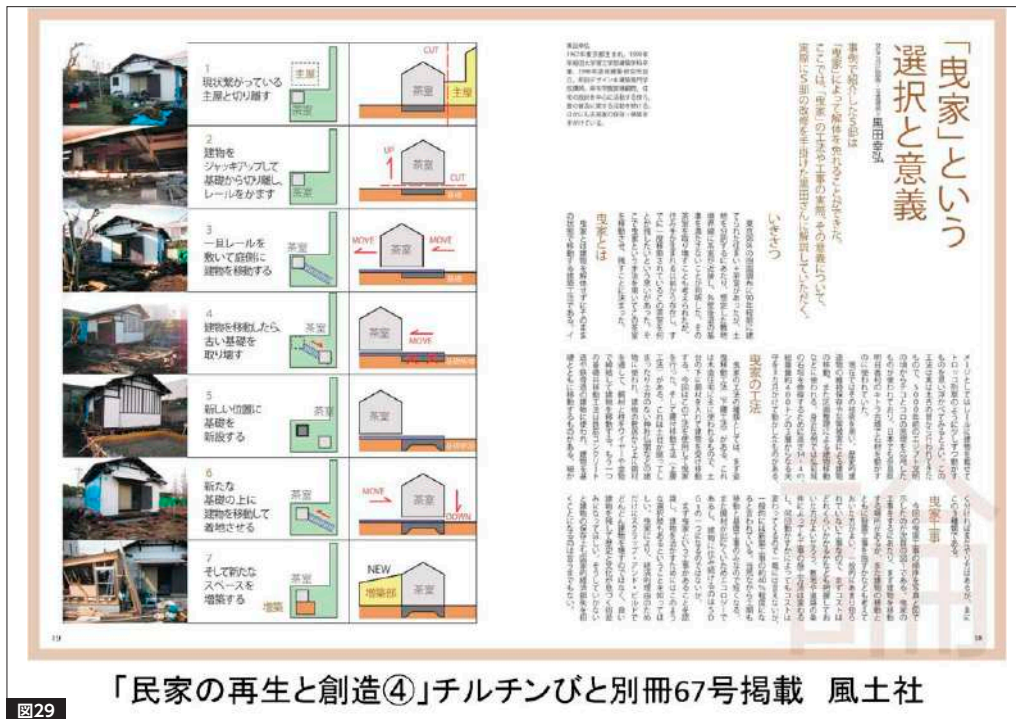
図26 こちらは畳の空間の一例です。庭と一体になった新しい和室の形をつくり、一部に現代的な床の間ということで、ガラスを用いて新しい空間を提案しています。畳は古い和室だけではなく、こういう現代的な空間にも使えるということを知ってほしい。

図27 これもモダンなデザインということで和紙畳です。天然いぐさではないのですが、青い畳の周りに白いコルクタイル。こういうモダンな使い方もあるのではないかと考えています。右側は染色した天然いぐさです。畳は一色というイメージがありますが、天然のいぐさも染色できます。この辺もどんどん提案できたら、使いた

い人も出てくると思っています。



図28 図29 これは茶室を曳家した例で、90年くらい前の茶室です。畳も90年前のものを使っていますが、畳床は減っており、稲わらを足して再生をして使いました。やはり畳は長く使える。稲わらを足したり補修すれば90年も使い続けられる。このことをみなさんに知っていただきたい。

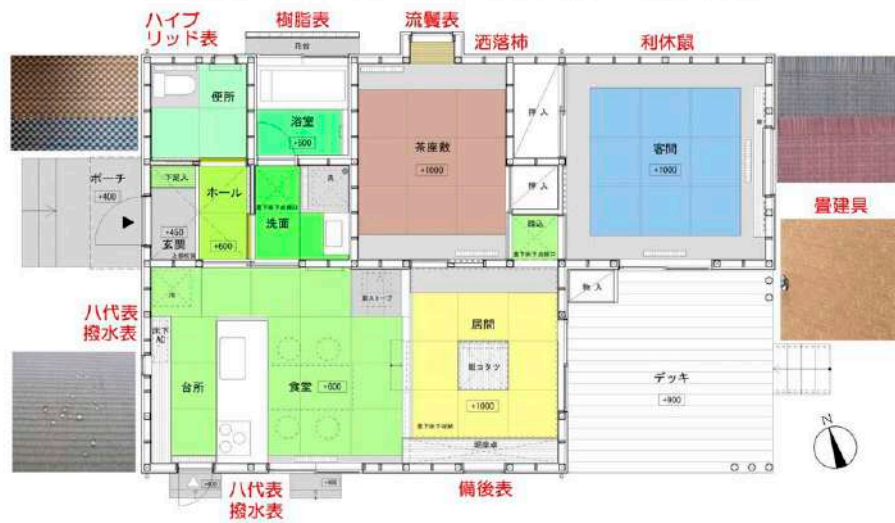


全面畳敷きにした実験住宅で畳の可能性を探る

図30 畳の実験住宅を設計した図面で、畳のショールームを自分でつくる試みです。食堂や台所、ホールや洗面・トイレも畳を使い、浴室も樹脂表という天然ではないが畳を使っています。浴室の床で見てほしいのは、床が柔らかい畳であること。床が石やタイルでは転んだら危ないですから、柔らかい材料が安心できます。最近ヒートショックなどがあって、倒れる人も多いので浴室にも畳を入れています。先ほどの染色畳を茶座敷と客間にも入れています。あとは建具にもいぐさを使いたい。水平面ではなく垂直面に畳を活かしたいので、実験的にいろいろとやってみようと思っています。

■畳の実験住宅を設計(ショールームとする)

全面畳敷きにして、様々な畳を使い、畳の可能性を探る



畳 楽 庵 1階平面図

図30

畳には湿気が弱点なので、IoT家電のエアコンを採用して東京から湿度をコントロールする

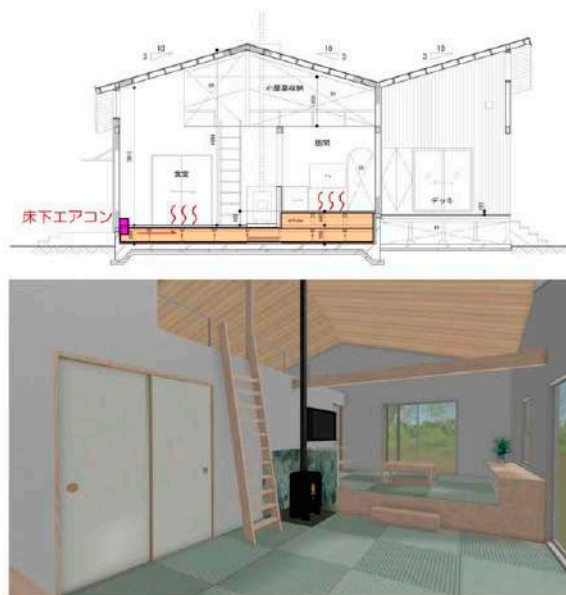


図31

図31 畳は湿気が弱点なので、床下エアコンを設置して、床下から乾燥させるつもりです。IoT家電を使って遠隔地からエアコンを動かし、湿気をコントロールしようかと考えています。とにかく、湿気がないように、ずっと湿気をコントロールできるようにしたいと思っています。

図32 客間や茶座敷はこんな感じで染色した畳を採用しております。茶座敷は全日本茶道学会の会長さんと話して、茶室と言うと固いので、茶座敷みたいに少しカジュアルに使える茶の場所をつくれたらという話で、そういう意味をふまえて茶座敷を作っています。

図33 天然いぐさのパンフレットをつくりたいと思っています。施主と設計者が写真やサンプルを見ながら選べるパンフレットで、それも畳の香り付きにしたい。匂いを嗅ぎながら織り方や色合い、大きさなどを決めていくことができるものをつくりたいと思っています。

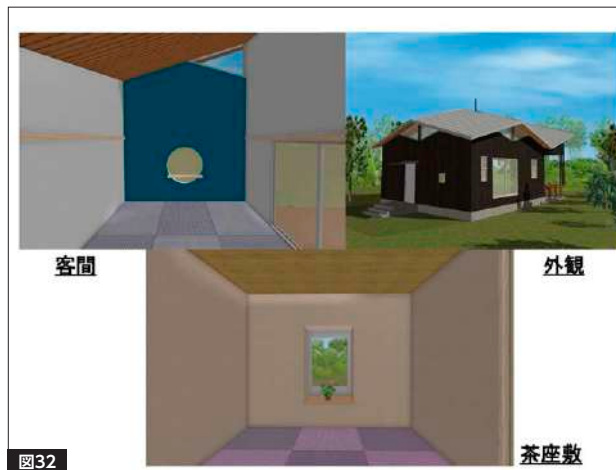


図32

「天然いぐさのパフレット」

施主と設計者が写真やサンプルを見ながら
選べるパフレット(香り付き)

1. 畳表の織り方(目積・市松・綾表等)
2. 畳表の色合い(染色)
3. 畳表の大きさ(1帖・半帖・その他)
4. 畳の厚み(15mm、30mm、55mm)
5. 畳縁の種類(あり、なし、サンプル帳)
6. 畳床の種類(藁床、インシュレーションボード、スタイロ等)
7. 畳表のランク含めたコスト

※これに加えてそれぞれの畳を選んだ時に
どのような空間になるかのイメージ写真

畳は多業種で成り立っているため、全体を掌握
しないとできないので畳業界と進める予定。

図33

「畳を知ってもらう活動を広げる」

モダンデザインな畳

- 建築士の黒田幸弘氏(遊民建築研究所)は、畳を後世に伝える様々な活動を行っています。東京都にある事務所兼自宅兼住居の最上階に、畳の客間を設置し、畳などの和の要素を取り入れ、モダンデザインでくつろげる空間を創出しています。
- このほか、防水加工や天然染土で染めたいくさ畳表を使ったデザインも提案しています。



農林水産省農産局
果樹・茶グループ
地域作物第2班
(いぐさ・藁糸・こんにやく)
の方たちと
情報交換しながら
いぐさの発展に努める

農林水産省が国土交通省・経済
産業省・文化庁等と連携して、
全国各地で開催される和の住ま
いの普及のためのシンポジウム
で使用

図34

「現代・和室の会」

「和室文化」を総合的に把握し、その固有の価値や
多義的意味を解き明かしながら、和室の重要性を
世界に示し、**無形文化遺産**として国際認知される
ことを目指します。(令和6年4月設立)

2023年12月に和室WGにて「畳を伝えていくために」講演

顧問:服部 孝生(千葉大学名誉教授)
松村 秀一(神戸芸術工科大学学長)
会長:内田 青蔵(神奈川大学特任教授)
副会長:稲葉 信子(筑波大学名誉教授)
岡 綾里子(関西大学教授)
小沢 朝江(東海大学教授)
桐浴 邦夫(京都建築専門学校副校長)
藤田 望児(奈良女子大学工学部長)
現在個人会員62名、法人会員8社

毎日新聞
2024年1月18日号

和室=畳

図35

図34 畳を知ってもらう活動を広げるということで、農林水産省農産局果樹・茶グループ地域作物第2班の方々と情報交換をしながら、いぐさの発展に努めています。写真のパネルは全国各地で開催されている、和の住まいの普及のためのシンポジウムで使用されています。

図35 「現代・和室の会」では和室を無形文化遺産にしようとしております。和食は無形文化遺産になってます。和室も無形文化遺産にしようという話で、大学の先生方が中心となって活動しています。新聞などにも掲載されています。やはり和室には畳だと思っていて、和室をつくる中で畳は必需品です。



図36

図36 最後に、今後畳を広げていくためには「見る」「知る」「体験する」ことがいっばん大切なので、この3つの要素を軸に畳を知ってもらえたらと思います。みなさんにもいろいろご協力いただけたらありがたいです。以上、ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。建築士としてのお立場、また教育者としてのお立場からも大変興味深い取り組みをご紹介いただきました。

質疑応答

司会 それでは、ここで質疑応答の時間にさせていただきます。時間が限られていますが、ご質問やご意見がある方は挙手をお願いいたします。

質問者1 優良工務店の会副会長を務めております青木と申します。本日は非常に参考になりました。私自身、工務店と設計事務所を経営しており、4点ほど意見というか参考にしていただければと思います。まず、岡山にあるDAIKENの工場についてです。その工場では機械や部品が生産されておらず、近くで織機をやめた方の古い機械を取り寄せて部品をストックしています。部品をストックすることは、車の古い部品をストックするのと同様に、今後重要になるのではないかと思います。



次に、畳を断熱材として利用する提案です。熱貫流率などの断熱性能を記し、エコ住まいの補助金を活用することで、面白い取り組みになると思います。たとえば、1階の床に畳を使い、熱貫流率を計算した上で補助金をもらうことができるのではないかと考えました。

また、公共事業においても、木質化や木造化を進める中で畳を部屋に取り入れる補助金制度があれば、さらに畳の利用が進むのではないかと思います。

最後に、伝統工法や伝統的な技術の継承についてです。住宅産業研修財団で大工志塾を運営していますが、若い大工さんが減っており、畳屋さんや建具屋さんも減少しています。そこで、伝統的な素材や技術を継承する仕組みを作ることが重要だと思います。以上です。

司会 どうもありがとうございます。ご感想でもご質問でもけっこうです。いかがでしょうか。



事務局・越海 一般の人の立場として、畳を購入する際にはどのようにアプローチすればいいのでしょうか。今日の話で、ピンからキリまでさまざまな種類があることがわかりましたが、情報を得るためのツールについて教えていただけると助かります。

石河 実は最近、畳屋さんがどこにあるかわからない、とりあえずホームセンターに行ってみるといった声をよく聞きます。私ども全日本畳事業協同組合では、先ほどお話ししましたように、技能士の取得を推奨したり、品質管理の規格を導入したりして、しっかりとしたプレゼンテーションや説明ができる畳屋さんを育成しております。組合のホームページには、各県の組合管理者のリストが掲載されていますので、お問い合わせいただければ適切な対応ができると思います。よろしくお願いいたします。



司会 ありがとうございます。これにて第265回コミュニケーション・プラザを終了させていただきます。本日は長時間のご聴講、まことにありがとうございました。